４．京都ノートルダム女子大学学則

第１章　目的及び自己点検・評価

（目的）

第１条　本学は、教育基本法及び学校教育法の規定に基づき、深く専門の学芸を教授研究するとともに、カトリック精神及び日本文化の優れた伝統を体し、教養高き女性を育成して我が国文化の推進に寄与することを目的とする。

２　本学は、その目的の実現のため、教育、研究活動を通じて社会との連携を深めるとともに、社会の発展に寄与するものとする。

（自己点検・評価）

第１条の２　本学は、教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動の状況について自己点検及び評価を実施し、その改善・充実に努める。

２　自己点検及び評価の実施体制並びに方法については、別に規程で定める。

第2章　学部及び学科

（学部）

第２条　本学に人間文化学部、生活福祉文化学部及び心理学部を置く。

⑴　人間文化学部は、言語・歴史・文学・思想・芸術・倫理・宗教など、人々の生活形成の様式と内容の総体である「文化」という視点から、「人間」存在の意味やその営為のありさまを学際的に学び、文化の多様性を理解し、異文化に対する寛容な国際感覚を身につけ、幅広く社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

⑵　生活福祉文化学部は、現代人の暮らしを生活文化と生活福祉の両面から複合的に学び、幅広い知識と科学的な洞察力を備えることで、豊かで質の高い生活を営み、さらに質の高い社会を創造する支援者として活躍できる人材を育成することを目的とする。

⑶　心理学部は、心理学の基礎知識や技能を習得し、さらに現代社会の要請に応じた実践的問題解決能力を身につけた人材を育成することを目的とする。

（学科）

第３条　人間文化学部に英語英文学科、人間文化学科の２学科を置き、生活福祉文化学部に生活福祉文化学科を置き、心理学部に心理学科を置く。

２　生活福祉文化学科に保育士養成課程（指定保育士養成施設）を置き、保育士養成課程に関し必要な事項は、別に規程で定める。

第３章　修業年限及び収容定員

（修業年限）

第４条　本学の修業年限は、４年とする。ただし、３年次編入学生の修業年限は２年とする。

（在学期間）

第５条　在学期間は、８年を超えることはできない。ただし、第28条及び第29条による転入学生及び編入学生の在学期間については、修業年限の２倍までとする。

（収容定員）

第６条　収容定員は、次のとおりとする。

人間文化学部	英語英文学科	入学定員	110名	3年次編入学定員５名	収容定員	450名
	人間文化学科	入学定員	60名	3年次編入学定員一名	収容定員	240名
生活福祉文化学部	生活福祉文化学科	入学定員	100名	3年次編入学定員５名	収容定員	410名
心理学部	心理学科	入学定員	160名	3年次編入学定員８名	収容定員	656名
	現代心理専攻	入学定員	30名	3年次編入学定員２名	収容定員	124名
	学校心理専攻	入学定員	50名	3年次編入学定員３名	収容定員	206名
	臨床心理専攻	入学定員	80名	3年次編入学定員３名	収容定員	326名

第４章　学年、学期及び休業日

（学年）

第７条　学年は、４月１日に始まり、翌年３月31日に終わる。

（学期）

第８条　学年を分けて、次の２学期とする。

前　期　　４月１日から９月30日まで

後　期　　10月１日から翌年３月31日まで

（休業日）

第９条　休業日は、次のとおりとする。

⑴　日曜日及び土曜日

⑵　国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第 178号）に定める休日

⑶　創立記念日（12月８日）

⑷　春期休業日（３月21日から４月７日まで）

⑸　夏期休業日（８月１日から９月30日まで）

⑹　冬期休業日（12月24日から翌年１月７日まで）

２　学長は、必要により、臨時に休業し、又は、休業日に授業を課すことがある。

第５章　授業科目及び単位

（授業科目の区分）

第10条　授業科目は、その内容により次のとおり分ける。

共通教育科目、英語英文学科専門教育科目、人間文化学科専門教育科目、生活福祉文化学科専門教育科目、心理学科現代心理専攻専門教育科目、心理学科学校心理専攻専門教育科目、心理学科臨床心理専攻専門教育科目、学際教育科目、教職に関する科目、司書に関する科目、博物館学芸員に関する科目、司書教諭に関する科目、プレゼンテーション実務士に関する科目、日本語教員養成課程に関する科目

（授業科目及び単位）

第11条　前条に定める各科目に属する授業科目とその単位数は別表１のとおりとする。

第６章　履　修　方　法

（授業期間）

第12条　１年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週を原則とする。

（授業の方法）

第13条　授業は、講義、演習、実験、実習及び実技により行うものとする。

２　前項の授業は、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

３　前項の授業を実施する授業科目については、別に定める。

（単位の授与）

第14条　授業科目の履修は、単位制とし、履修した授業科目に対しては、試験によるほか授業への参加度その他学修の成果を評価して、単位を与えるものとする。

２　成績評点は、100点を満点とし、60点以上を合格とする。ただし、100点を満点とする評価を行うことが難しい授業科目については、別に定める方法によることができる。

（卒業の要件）

第15条　学生は、本学に４年以上在学し、所定の授業科目を次のとおり履修して、合計124単位以上を修得しなければならない。

⑴　共通教育科目

英語英文学科	16単位以上
人間文化学科	26単位以上
生活福祉文化学科	22単位以上
心理学科現代心理専攻	24単位以上
心理学科学校心理専攻	24単位以上

心理学科臨床心理専攻　24単位以上

⑵　英語英文学科専門教育科目　88単位以上

⑶　人間文化学科専門教育科目　72単位以上

⑷　生活福祉文化学科専門教育科目　82単位以上

⑸　心理学科現代心理専攻専門教育科目　80単位以上

心理学科学校心理専攻専門教育科目　86単位以上

心理学科臨床心理専攻専門教育科目　86単位以上

⑹　学際教育科目（他学部・他学科（心理学科にあっては他専攻を含む。以下同じ。）の専門教育科目及び他大学等との単位互換科目（インターンシップ認定を除く。）をいう。）

英語英文学科　０～20単位

人間文化学科　０～26単位

生活福祉文化学科　０～20単位

心理学科現代心理専攻　０～20単位

心理学科学校心理専攻　０～14単位

心理学科臨床心理専攻　０～14単位

２　前項の規定により卒業の要件として修得すべき124単位のうち、第13条第２項の授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。

（入学前の既修単位等の認定）

第16条　教育上有益と認めるときは、学生が入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得したものを含む）を、入学後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

２　教育上有益と認めるときは、学生が入学前に行った第17条の２に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし単位を与えることができる。

３　前２項により修得したものとみなすことができる単位数又は与えることができる単位数は、編入学、転入学等の場合を除き本学において修得した単位数を除外して、合わせて30単位を超えないものとする。

（他の大学又は短期大学における授業科目の履修等）

第17条　教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学との協定に基づき、当該他大学等の授業科目を履修させ、修得した単位のうち30単位を超えない範囲で本学の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

２　前項の規定は、第31条の規定による留学の場合に準用する。この場合において、本学の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる単位数は、前項の単位数と合わせて30単位を超えないものとする。

第17条の２　教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。この場合において、与えることができる単位は、前条の単位数と合わせて30単位を超えないものとする。

（単位算定の基準）

第18条　授業科目の単位数は、１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

⑴　講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって１単位

⑵　実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって１単位

⑶　１の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち２以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前２号に規定する基準を考慮して別に定める時間の授業をもって１単位

２　前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等については、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。

（履修登録単位数の制限）

第18条の２　各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、１年間及び１学期間に履修登録することができる単位数を制限する。

２　履修登録単位数の制限及びその取扱いについては、別に規程で定める。

（教育職員免許状の取得）

第19条　教育職員免許状取得のための所要資格を得ようとする者は、教育職員免許法の定めるところに従って必要な単位を修得しなければならない。

2　本学において取得できる免許状の種類は、次のとおりとする。

人間文化学部	英語英文学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	外国語 （英語）
	人間文化学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	国語
生活福祉文化学部	生活福祉文化学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	家庭
心理学部	心理学科 学校心理専攻	小学校教諭一種免許状 幼稚園教諭一種免許状	

（司書資格の取得）

第20条　司書となる資格を得ようとする者は、図書館法の定めるところに従って本学所定の必要な単位を修得しなければならない。

（博物館学芸員資格の取得）

第20条の２　博物館学芸員となる資格を得ようとする者は、博物館法の定めるところに従って、本学所定の必要な単位を修得しなければならない。

（司書教諭資格の取得）

第20条の３　司書教諭となる資格を得ようとする者は、第19条に定める科目を履修するほか学校図書館法の定めるところに従って本学所定の必要な単位を修得しなければならない。

（保育士資格の取得）

第20条の４　生活福祉文化学部生活福祉文化学科において、保育士となる資格を得ようとする者は、第15条の規定によるほか、児童福祉法施行令及び児童福祉法施行規則の定めるところにより、第11条に定める科目の単位を修得しなければならない。

（社会福祉士受験資格の取得）

第20条の５　生活福祉文化学部生活福祉文化学科において、社会福祉士国家試験受験資格を得ようとする者は、第15条の規定によるほか、社会福祉に関する科目を定める省令の定めるところにより、本学が別に定める科目の単位を修得しなければならない。

（精神保健福祉士受験資格の取得）

第20条の６　生活福祉文化学部生活福祉文化学科において、精神保健福祉士国家試験受験資格を得ようとする者は、第15条の規定によるほか、本学が別に定めるところにより精神保健福祉士養成課程に在籍し、科目の単位を修得しなければならない。

第７章　卒業及び学位の授与

（卒業及び学位）

第21条　第４条に定める年数以上本学に在学し、所定の授業科目を履修して、その単位を修得した学生には卒業証書を授与する。

2　卒業の時期は、学年の終わり又は学期の終わりとする。

3　本学を卒業した者に、次の学士の学位を授与する。

人間文化学部	英語英文学科	学士（文学）
	人間文化学科	学士（人間文化）
生活福祉文化学部	生活福祉文化学科	学士（生活福祉文化）
心理学部	心理学科	学士（心理）

（卒業延期）

第21条の２　卒業の要件を満たした者が卒業時期の延期を希望するときは、これを許可することができる。

2　卒業延期について必要な事項は、別に定める。

第８章　入　　学

（入学時期）

第22条　入学の時期は、学年の始めとする。ただし、外国人留学生の入学の時期は、別に定める。

（入学資格）
第23条　本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する女子とする。
⑴　高等学校を卒業した者
⑵　通常課程による12年の学校教育を修了した者（通常課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。）
⑶　外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
⑷　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
⑸　文部科学大臣の指定した者
⑹　大学入学資格検定規程により文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者
⑺　その他、相当の年令に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると本学において認めた者
（入学願）
第24条　本学に入学を志願する者は、所定の期日までに入学願書の提出その他の必要な手続きをしなければならない。
（入学許可）
第25条　学長は、学科試験及び身体検査その他の成績により選考の上、入学を許可する。
（入学手続）
第26条　入学を許可された者は、所定の期日までに在学誓書及び在学保証書の提出及びその他の必要な入学手続きをしなければならない。
２　入学を許可された者が前項の手続きをしないときは、入学許可を取り消すことができる。
（保証人）
第27条　保証人は、父母又はこれに代わるべき者で、独立の生計を営み、保証人としての責務を確実に果たし得る者でなければならない。
２　父母又はこれに代わるべき者の許から直接通学できない者は、副保証人を必要とする。
３　副保証人は、京都市内又はその附近に在住する成年者で本学が適当と認めた者とする。ただし、外国人留学生にあっては、別に定める。
４　保証人は、その学生の在学中における一切のことについて連帯の責任を負わなければならない。
５　保証人が死亡し、又はその他の理由によって資格を失ったときは、新たに保証人を定めて届け出るものとする。

第９章　転学、編入学、転学部、転学科、転専攻、留学、休学、退学、除籍及び再入学

（転入学）
第28条　他の大学から、本学に転入学しようとする者は、転入学願を提出しなければならない。
２　学長は審査の上、転入学を許可することができる。
３　転入学願には、現に在学する大学の学長の承諾書を添付しなければならない。
（編入学）
第29条　本学に編入学しようとする者は、編入学願を提出しなければならない。
２　学長は、第６条に規定する編入学定員を超えない範囲で、３年次に編入学を許可することができる。
３　前項の規定にかかわらず、２年次の学年定員に欠員が生じた場合には、２年次に編入学により学生を受け入れることがある。この場合の修業年限は３年とする。
４　前２項の規定により本学に編入学を志願できる者は、次のとおりとする。
⑴　３年次編入にあっては、大学を卒業した者又は大学に２年以上在学し、卒業要件となる単位を62単位以上修得した者又は修得見込みの者とし、２年次編入にあっては、大学を卒業した者又は大学に１年以上在学し、卒業要件となる単位を31単位以上修得した者又は修得見込みの者とする。
⑵　短期大学、高等専門学校、国立工業教員養成所又は国立養護教諭養成所を卒業した者（卒業見込みの者を含む。）。
⑶　専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者又は修了見込みの者。ただし、学校教育法第90条に規定する大学入学資格を有するものに限る。
５　前４項に定めるほか、編入学に関し必要な事項は、別に規程で定める。
（転出学）
第30条　本学から他の大学に転学しようとする者は、その事由を具して学長に願い出て許可を受けなければならない。
（転学部、転学科及び転専攻）
第30条の２　本学の学生で転学部、転学科及び転専攻を希望する者があるときは、学年の始めに限り選考の上、これを許可す

ることがある。
２　転学部、転学科及び転専攻に関し必要な事項は、別に規程で定める。
（留学）
第31条　外国の大学で学修しようとする者は、留学願を提出しなければならない。
２　学長は、留学の期間が１年を超えない期間の範囲で留学を許可することができる。ただし、特別の事情があるときは、さらに１年以内に限り延長の許可をすることができる。
３　留学の期間は、在学の期間に算入する。
（休学及び復学）
第32条　疾病その他やむを得ない事由により引き続き３カ月以上休学しようとする者又は休学の事由が止み復学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。なお、疾病の場合は医師の診断書の提出を要する。
（休学の期間）
第32条の２　休学の期間は、１年を超えることができない。ただし、特別の事由があるときは、学長の許可を得て、さらに１年以内に限り休学することができる。
２　休学の期間は、通算して４年を超えることができない。
３　休学の期間は、在学の期間に算入しない。
（退学）
第33条　退学しようとする者は、その事由を具して、保証人連署の上、学長に願い出て許可を受けなければならない。
（除籍）
第33条の２　学生が次の各号の一に該当するときは、除籍することができる。
⑴　第５条に掲げる在学期間を超えたとき。
⑵　第32条の２に規定する休学期間を超えてもなお復学できないとき。
⑶　病気その他の事由により成業の見込みがないと認められるとき。
⑷　授業料その他の納入金の納入を怠り、督促を受けてもなお納入しないとき。
⑸　死亡したとき。
⑹　長期にわたり行方不明となったとき。
２　前項第４号により除籍された者が、別に定める期間内に未納の授業料その他の納入金を納入し、復籍を願い出たときは、除籍を取り消すことがある。
（再入学）
第34条　本学を退学し再度入学を希望する者があるときは、審査の上、これを許可することがある。
２　再入学に関し必要な事項は、別に規程で定める。

第10章　学 生 納 入 金

（入学検定料、入学金及び授業料等）
第35条　入学検定料、入学金及び授業料その他の納入金（授業料、教育充実費、施設設備費、卒業費をいう。以下同じ。）は、別表２のとおりとする。
２　前項に定めるほか、実習費等を徴収する場合がある。
（納入期）
第35条の２　入学検定料及び入学金は、所定の期日までに納めなければならない。
２　授業料その他の納入金等は、前期・後期に分けて、それぞれ年額の２分の１の額を納入するものとする。（ただし、卒業費は卒業年次に納入するものとする。）
前　期　　４月１日から４月30日まで
後　期　　10月１日から10月31日まで
３　新入学生にあっては、前項の規定にかかわらず授業料その他の納入金（卒業費を除く。）を所定の期日までに納めなければならない。所定の期日までに納めないときは、入学の許可を取り消すことがある。
（学生納入金の変更）
第36条　学生は、在学中に授業料その他の納入金について変更があった場合は、変更後に納入期が到来するものから新たに定められた金額を納入しなければならない。
（入学検定料等の返還）
第37条　既納の入学検定料、入学金及び授業料その他の納入金は、原則として返還しない。

（授業料その他の納入金の延納及び分納）
第38条　授業料その他の納入金の全部又は一部を所定の期日までに納入できない事由があるときは、直ちに願い出て延納又は分納の許可を受けなければならない。
２　前項の延納及び分納に関し必要な事項は、別に定める。
（休学中の在籍料）
第39条　学年又は学期を通して休学を許可された場合は、別に定める在籍料を納めなければならない。
（入学金等の減免）
第40条　成績優秀にして、学資の支弁が極めて困難な者、その他本学が定める条件を満たす者には、入学金及び授業料その他の納入金を減免することができる。
２　前項の減免に関し必要な事項は、別に規程で定める。
（奨学金）
第41条　成績優秀な者又は経済的理由により修学困難な者には、選考の上、奨学金を支給又は貸与することができる。
２　奨学生及び奨学金に関し必要な事項は、別に規程で定める。

第11章　科目等履修生、単位互換履修生、聴講生、外国人留学生及び外国人研究員

（科目等履修生・単位互換履修生）
第42条　本学の学生以外の者で、本学の授業科目のうち、１又は複数の授業科目の履修を希望する者があるときは、本学の教育に支障のない場合に限り、選考の上、科目等履修生として許可することができる。
２　他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）の学生で、大学間の協定に基づき、特定の授業科目を定め履修を希望する者があるときは、本学の教育に支障のない限り、選考の上、単位互換履修生として許可することができる。
３　科目等履修生及び単位互換履修生に対する単位の授与については第14条の規定を準用する。
４　科目等履修生及び単位互換履修生に関する事項は、別に規程で定める。
（聴講生）
第43条　本学の学生以外の者で、本学の授業科目のうち、１又は複数の授業科目の聴講を希望する者があるときは、本学の教育に支障のない場合に限り、選考の上、聴講生として許可することができる。
２　聴講生に関する事項は、別に規程で定める。
（外国人留学生）
第44条　外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する女子及び外国の大学との協定に基づき、本学に留学を希望する女子があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。
２　外国人留学生に関し必要な事項は、別に規程で定める。
（外国人研究員）
第45条　外国の大学との協定に基づき、本学において研究を希望する者があるときは、選考の上、外国人研究員として受け入れることができる。

第12章　公　開　講　座

（公開講座）
第46条　本学は、随時に公開講座を開設することがある。
２　公開講座に関し必要な事項は、別に定める。

第13章　賞　　罰

（表彰）
第47条　学生として品行方正で学業優秀な者、又は他の学生の範とすべき篤行ある者には、表彰することがある。
（懲戒）
第48条　学則その他本学の定める諸規程に違反し、学生の本分に反する行為のあったときは、学長は懲戒を行う。
２　懲戒は、訓告、停学及び退学とする。
３　前項の退学は、次の各号に該当する学生に対してのみ行う。
⑴　性行不良で改善の見込みがないと認められる者

⑵　学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
⑶　正当の理由なくして出席常でない者
⑷　大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第14章　職　員　組　織

（職員）
第49条　本学に学長、教授、准教授、講師及び助教並びに事務職員、技術職員及びその他の職員を置く。
２　本学に副学長を置くことがある。副学長は学長を助け、学長の命を受け校務をつかさどる。
３　学部に学部長を置く。学部長は学部を統括し、校務をつかさどる。
４　各学科に学科主任を置く。学科主任は学科の業務を掌理する。
（教授会）
第50条　学部に学校教育法第93条第１項に定める教授会を置く。
２　教授会は、教授、准教授、講師をもって組織する。
（教授会の審議事項）
第51条　教授会の審議事項は、別に規程で定める。

第15章　附　属　施　設

（図書館情報センター）
第52条　本学に図書館情報センターを置く。
２　図書館情報センターに関する事項は、別に規程で定める。
（キャリアセンター）
第53条　本学にキャリアセンターを置く。
２　キャリアセンターに関する必要な事項は、別に規程で定める。
（その他のセンター）
第54条　本学にカトリック教育センター及び心理臨床センターの他、必要なセンターを置くことができる。
２　設置するセンターに関する必要な事項は、別に規程で定める。
（学生寮）
第55条　本学に学生寮を置き、学生の希望により、選考の上、入寮させることができる。
２　学生寮に関する必要な事項は、別に規程で定める。
（医務室）
第56条　本学に医務室を置き、教職員、学生の健康管理及び応急処置を行う。

第16章　補　　則

（細則）
第57条　この学則の実施に際し必要な細則は、別に定める。
（学則の改正）
第58条　この学則の改正には、管理運営会議の議を経て、学校法人ノートルダム女学院理事会の承認を得るものとする。

附　則

この学則は、昭和36年４月１日から施行する。

（省　略）

附　則（平成９年１月14日改正）

１　この改正は、平成９年４月１日から施行する。ただし、第36条の改正は、平成８年10月１日から適用する。なお、平成９年３月31日以前の入学者については、第11条別表の英語英文学科専門教育科目のうち平成８年度以前入学者にも適用する３科目及び特定目的海外研修科目を除き、なお従前の例による。
２　第11条別表の司書に関する科目は、図書館法施行規則の一部改正（平成８年８月28日省令第27号）に伴い平成９年４月１

日に改正し、平成10年４月１日から施行する。ただし、旧規程と新規程の経過措置として旧規程の科目の単位を平成10年３月31日まで存続させ、平成８年度以前入学者については、平成12年３月31日までの間、旧規程で修得した科目の単位を新規程の相当する科目の単位とみなす。

附　則（平成10年１月20日改正）

1　この改正は、平成10年４月１日から施行する。

2　第15条、第16条の改正、及び別表（11条関係）の改正における教養共通科目統合科目「コンピューターの基礎」については、平成10年度以後の入学者に適用する。

3　第34条及び第36条の改正は、平成９年10月１日から適用する。ただし、平成９年度以前の入学者に係る授業料の年額については、改正後の第36条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

4　平成９年度以前において、本学との協定に基づき、本学の授業科目を履修した他大学（外国の大学を含む。）の学生については、改正後の第42条の規定により履修したものとする。

5　別表（第11条関係）の英語英文学科専門教育科目「同時通訳法」の改正に係る経過措置については、当該学科の定めるところによる。

附　則（平成10年12月18日改正）

1　この改正は、平成11年４月１日から施行する。

2　第36条の２は、平成10年10月１日から適用する。ただし、平成10年度以前の入学者に係る授業料の年額については、第36条の２の規定にかかわらず、なお従前の例による。

3　第40条の改正は、平成10年10月１日から適用する。ただし、平成10年度以前の入学者に係る休学中の授業料については、改正後の第40条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

4　第49条及び第50条の改正は、平成11年１月１日から適用する。

5　別表（第11条関係）の英語英文学科専門教育科目「同時通訳入門」「外国語としての日本語」に係る経過措置については、当該学科の定めるところによる。

6　別表（第11条関係）の生活文化学科専門教育科目「住生活学」「住宅論」「住居史」「住宅構造学Ⅰ・Ⅱ」「住居材料学実習」「家庭教育」に係る経過措置については、当該学科の定めるところによる。

附　則（平成11年12月22日改正）

1　この改正は、平成12年４月１日から施行する。

2　第２条、第３条、第６条、第10条、第11条、第15条、第19条及び第21条の改正は、平成12年度入学生から適用し、平成11年度以前の入学生については、なお従前の例による。

3　改正後の第６条に定める英語英文学科及び生活文化学科の平成12年度から平成14年度までの収容定員に係る経過措置については、次のとおりとする。

平成12年度	英語英文学科	収容定員	710名	生活文化学科	収容定員	240名
平成13年度	〃	〃	620名	〃	〃	160名
平成14年度	〃	〃	530名	〃	〃	80名

附　則（平成12年12月21改正）

1　この改正は、平成13年４月１日から施行する。

2　改正後の第６条に定める英語英文学科の平成13年度から平成14年度までの収容定員については、第６条の規程にかかわらず次のとおりとする。

平成13年度 英語英文学科 収容定員 642名

平成14年度 英語英文学科 収容定員 574名

3　第11条（別表）（博物館学芸員に関する科目を除く）の改正は、平成13年度入学者から適用し、平成12年度以前の入学者については、なお従前の例による。

4　第19条の改正は、平成13年度入学者から適用し、平成12年度以前の入学者については、なお従前の例による。

5　第10条、第11条及び第20条の２の改正については、平成12年度以後入学者のうち人間文化学科入学者に適用し、平成11年度以前の入学者については、なお従前の例による。

6　第30条の２の改正は、平成12年度入学者から適用し、平成11年度以前の入学者については、なお、従前の例による。

附　則（平成13年12月12日改正）

1　この改正は、平成14年４月１日から施行する。

附　則（平成14年３月12日改正）

1　この改正は、平成14年４月１日から施行する。

附　則（平成14年12月９日改正）

1　この改正は、平成15年４月１日から施行する。

附　則（平成15年３月15日改正）

1　この改正は、平成15年４月１日から施行する。

附　則（平成15年12月18日改正）

1　第34条に関する改正は、平成16年１月１日から施行する。

2　第54条に関する改正は、平成16年４月１日から施行する。

3　第10条、第11条、第11条（別表）及び第15条の改正は、平成16年４月１日から施行する。

なお、この改正は、平成16年度入学者から適用し、平成15年度以前の入学者については従前の例による。

附　則（平成16年12月22日改正）

1　この改正は、平成17年４月１日から施行する。

2　第２条、第３条、第６条、第10条、第11条、第11条別表（人間文化学部の「キリスト教音楽」「キャリア形成」「ことばの習得」「演劇法の基礎」「演劇法」「栄養学概論」「ライフステージと食生活」「食品官能評価論」及び「食品流通論」を除く。）、第15条、第19条及び第21条の改正は、平成17年度入学者から適用し、平成16年度以前の入学者については、なお従前の例による。

3　改正後の第６条に定める人間文化学科及び生涯発達心理学科の平成17年度から平成19年度までの収容定員に係る経過措置については、次のとおりとする。

平成17年度	人間文化学科	収容定員	211名	生涯発達心理学科	収容定員	389名
平成18年度	人間文化学科	収容定員	226名	生涯発達心理学科	収容定員	274名
平成19年度	人間文化学科	収容定員	241名	生涯発達心理学科	収容定員	137名

附　則（平成17年３月９日改正）

1　この改正は、平成17年４月１日から施行する。

附　則（平成17年12月21日改正）

1　この改正は、平成18年４月１日から施行する。

2　第11条（別表）の改正は、平成18年度入学者から適用し、平成17年度以前の入学者については、なお従前の例による。ただし、「インターンシップ」「英語で学ぶ日本文化」「日中文化交流史」「専門書講読Ⅰ」「専門書講読Ⅱ」及び「教育経営論」に係る改正は、平成16年度入学者から適用し、平成15年度以前の入学者については、なお従前の例による。

3　第19条の改正は、平成18年度入学者から適用し、平成17年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附　則（平成18年３月31日改正）

1　この改正は、平成18年４月１日から施行する。

2　文学部生活文化学科は、平成18年３月31日をもって廃止する。

附　則（平成18年11月22日改正）

1　この改正は、平成19年４月１日から施行する。

2　第２条、第３条、第６条、第15条、第19条、第20条の４、及び第21条の改正は、平成19年度入学生から適用し、平成18年度以前の入学生については、なお従前の例による。

3　改正後の第６条に定める人間文化学部生活福祉文化学科の平成19年度から平成21年度までの収容定員に係る経過措置については、次のとおりとする。

平成19年度	人間文化学部生活福祉文化学科収容定員	293名
平成20年度	人間文化学部生活福祉文化学科収容定員	190名
平成21年度	人間文化学部生活福祉文化学科収容定員	95名

附　則（平成18年12月20日改正）

1　この改正は、平成19年４月１日から施行する。

2　第11条別表（小学校教育実習及び幼稚園教育実習に係るものを除く。）の改正は、平成19年度入学生から適用し、平成18年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成19年３月20日改正）

1　この改正は、平成20年４月１日から施行する。

附　則（平成19年６月27日改正）

1　この改正は、平成20年４月１日から施行する。

附　則（平成19年９月26日改正）

1　この改正は、平成20年４月１日から施行する。

附　則（平成19年12月19日改正）

1　この改正は、平成20年４月１日から施行する。
2　第10条、第11条及び第11条別表の改正は、平成20年度入学生から適用し、平成19年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成20年１月30日改正）

1　この改正は、平成20年４月１日から施行する。

附　則（平成20年７月23日改正）

1　この改正は、平成20年７月24日から施行する。ただし、別表１の改正は、平成21年度入学生から適用し、平成20年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成20年12月24日改正）

1　この改正は、平成20年12月25日から施行する。
2　第15条の人間文化学科に係る改正は、平成20年度入学生から適用し、平成19年度以前の入学生については、なお従前の例による。
3　別表１の改正は、平成21年度入学生から適用し、平成20年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成21年１月28日改正）

1　この改正は、平成22年４月１日から施行する。
2　改正後の第６条に定める人間文化学部人間文化学科の平成22年度の収容定員に係る経過措置については、次のとおりとする。

平成22年度　人間文化学部人間文化学科　収容定員 248名

附　則（平成21年３月18日改正）

1　この改正は、平成21年３月19日から施行する。ただし英語Ⅲ・Ⅳ（リーディング&ライティング）及び生活福祉文化学部のノートルダム学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに係る改正は、平成20年度入学者から適用し、平成19年度以前入学生については、なお従前に例による。

附　則（平成21年５月20日改正）

1　この改正は、平成21年４月１日から施行する。

附　則（平成21年10月28日改正）

1　この改正は、平成22年４月１日から施行する。

附　則（平成21年12月24日改正）

1　この改正は、平成22年４月１日から施行する。ただし、平成22年度入学生から適用し、平成21年度以前入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成22年１月27日改正）

1　この改正は、平成22年４月１日から施行する。

附　則（平成22年３月17日改正）

1　この改正は、平成22年４月１日から施行する。

附　則（平成22年５月28日改正）

1　この改正は、平成22年５月１日から施行する。

附　則（平成22年10月19日改正）

この改正は、平成23年４月１日から施行する。ただし、平成23年度入学生から適用し、平成22年度以前入学生については、なお従前の例による（ノートルダム学Ⅰ～Ⅲ及び基礎技能演習の単位数の記載に係るもの並びにウェブデザイン実務士に関する科目に係るものを除く。）。

附　則（平成23年１月18日改正）

1　この改正は、平成23年４月１日から施行する。
2　第19条及び別表１の改正は、平成23年度入学者から適用し、平成22年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附　則（平成23年３月29日改正）

1　この改正は、平成23年４月１日から施行する。
2　人間文化学部生活福祉文化学科及び生涯発達心理学科は、平成23年３月31日をもって廃止する。

附　則（平成23年10月18日改正）

1　この改正は、平成24年４月１日から施行する。
2　第６条に係る改正は、平成25年４月１日から施行する。改正後の第６条に定める心理学部心理学科の平成25年度の収容定員に係る経過措置については、次のとおりとする。

心理学部　　心理学科　　収容定員　670名

発達心理専攻　収容定員　129名
学校心理専攻　収容定員　210名
臨床心理専攻　収容定員　331名

3　第20条の６及び別表１に係る改正は、平成24年度入学者から適用し、平成23年度以前の入学者については、なお従前の例による。ただし、平成24年度以後に編入学した者及び再入学した者については、入学時点の学年にかかわらず、改正後の規定によることができる。

附　則（平成24年１月17日改正）

1　この改正は、第21条の２に係るものについては改正の日から、それ以外については平成24年４月１日から、それぞれ施行する。ただし、第10条、第11条、第15条並びに別表１に定める授業科目の区分（異なる区分への授業科目の移動を含む。）、履修条件及び授業科目のうち次に掲げるもの並びに平成23年10月18日の改正に係る生活福祉文化学部専門教育科目に係る改正は、平成24年度以後の入学者に適用し、平成23年度以前の入学者については、なお従前の例による。

ノートルダム学Ⅰ・Ⅱ、キリスト教音楽、基礎演習Ⅰ・Ⅱ、学びの扉Ⅰ・文化学、学びの扉Ⅱ・京都学、学びの扉Ⅲ・芸術学、学びの扉Ⅳ・文学、学びの扉Ⅴ・ことば学、学びの扉Ⅵ・女性学

2　平成23年度以前の入学者は、前項の規定にかかわらず、この改正（平成23年10月18日の改正を含む。）前の別表１の授業科目（以下「旧科目」という。）のうち次２項に掲げるものを除く旧科目を履修することができる。ただし、各学部（共通教育科目にあっては教務委員会）が別に定める期間内に限る。

3　平成23年度以前の入学者が、次の表に定める改正後の別表１の授業科目（以下「新科目」という。）のうち次項に掲げるものを除く旧科目を履修したときは、対応する旧科目に読替える。ただし、特に必要がある場合で、各学部（共通教育科目にあっては教務委員会）が適当と認めるときは、これ以外の科目の組合せについて読替えることができる。

新科目	旧科目
キリスト教入門	人間と宗教
健康スポーツ演習	健康スポーツ実習
アラビア語Ⅰ	アラビア語とアラブ文化Ⅰ
アラビア語Ⅱ	アラビア語とアラブ文化Ⅱ
日本語コミュニケーションⅠ	言語コミュニケーションⅠ
日本語コミュニケーションⅡ	言語コミュニケーションⅡ
日本語コミュニケーションⅢ	言語コミュニケーションⅢ
発展演習Ⅰ	専門書講読Ⅰ
発展演習Ⅱ	専門書講読Ⅱ
心理学研究法	心理学研究法入門
心理検査法	心理検査法入門
心理統計法Ⅰ及び心理統計法Ⅱ	心理統計法
推測統計学Ⅰ及び推測統計学Ⅱ	推測統計学

4　次の表の旧科目の単位を既に修得した者は、対応する新科目を履修できない。

新科目	旧科目
キャリア形成	キャリア形成Ⅰ
キャリア形成	キャリア形成Ⅱ
英語応用ａ	英語応用Ⅳ
英語応用ｂ	英語応用Ⅵ
英語応用ｃ	英語応用Ⅶ
英語応用ｅ	英語応用Ⅱ
英語応用ｆ	英語応用Ⅲ
英語応用ｇ	英語応用Ⅰ
英語応用ｈ	英語応用Ⅴ
英語応用ｊ	英語応用Ⅷ
日本古典文学講読	日本文学講読Ⅰ
日本近代文学講読	日本文学講読Ⅱ
日本文学特講	文学特講Ⅰ
識字活動と子どもの権利	識字活動と児童図書出版支援
昔話とストーリーテリング	口承文化としての昔話・伝説
図書館情報技術論	情報機器論
日中近代語彙比較論	日中文化比較語彙論

漢文学入門	文学特講Ⅱ
漢文学特講	日中文化交流史
朝鮮文化論	朝鮮文学講読
アラブ文学特講	文学特講Ⅲ
比較文学講読	比較文学講読Ⅰ
西洋美術史	西洋近代美術
音楽鑑賞法	音楽学概論
西洋思想史（古代・中世）	西洋思想史（古代）
キリスト教とラテン語Ⅰ	初歩のラテン語Ⅰ
キリスト教とラテン語Ⅱ	初歩のラテン語Ⅱ
精神医学Ⅰ	精神保健学
図書館制度・経営論	図書館経営論
図書館サービス概論	図書館サービス論
情報サービス論	情報サービス概説
○情報サービス演習Ⅰ	情報検索演習
情報サービス演習Ⅱ	レファレンスサービス演習
図書館情報資源概論	図書館資料論
情報資源組織論	資料組織概説
情報資源組織演習	資料組織演習
図書館情報資源特論	専門資料論
図書館サービス特論	資料特論
○図書・図書館史	図書及び図書館史
博物館情報・メディア論	視聴覚メディア論

（備考）

1　平成23年度以前の入学者が履修した新科目の単位は、相当する旧科目の属する科目区分（人間文化学科に入学した者が○印を付した新科目を履修した場合にあっては専門教育科目及び司書に関する科目の両方の区分）に算入する。

2　視聴覚メディア論の単位を既に修得した者で、博物館情報論の単位を修得していないものは、表の規定にかかわらず、博物館情報・メディア論を履修できる。ただし、卒業要件単位には算入しない。

3　司書に関する科目及び学芸員に関する科目の移行措置については、本学学則に定めるもののほか、関係法令の定めるところによる。

附　則（平成24年３月27日改正）

1　この改正は、平成25年４月１日から施行する。ただし、第６条、第10条、第11条、第15条及び別表２並びに別表１に定める授業科目の区分（異なる区分への授業科目の移動を含む。）、履修条件、必修科目及び次に掲げる授業科目に係る改正は、平成25年度以後の入学者に適用し、平成24年度以前の入学者については、なお従前の例による。

現代社会調査演習Ⅰ、現代社会調査演習Ⅱ

2　平成24年度以前の入学者は、前項の規定にかかわらず、この改正前の別表１の授業科目（以下「旧科目」という。）を履修することができる。ただし、心理学部が別に定める期間内に限る。

3　平成24年度以前の入学者が、次の表に定める改正後の別表１の授業科目（以下「新科目」という。）を履修したときは、対応する旧科目に読替える。

新科目	旧科目
心理テスト入門	心理検査法入門
心理テスト実習	心理検査法実習

4　次の表の旧科目の単位を既に修得した者は、対応する新科目を履修できない。

新科目	旧科目
現代青年の心理学	青年心理学
パーソナリティ心理学	人格心理学
現代社会の心理学	社会心理学
対人関係の心理学	人間関係論
心理療法概論	心理療法技法論

（備考）

平成24年度以前の入学者が履修した新科目の単位は、相当する旧科目の属する科目区分に算入する。

附　則（平成24年９月18日改正）

1　この改正は、平成25年４月１日から施行する。

2　平成24年度以前の入学者は、前項の規定にかかわらず、この改正前の別表１の授業科目を履修することができる。ただし、生活福祉文化学部が別に定める期間内に限る。

附　則（平成25年１月15日改正）

1　この改正は、平成25年４月１日から施行する。ただし、別表１に定める授業科目の区分（異なる区分への授業科目の移動を含む。）、履修条件、必修科目及び次に掲げる授業科目に係る改正は、平成25年度以後の入学者に適用し、平成24年度以前の入学者については、なお従前の例による。

現代社会調査演習Ⅰ、現代社会調査演習Ⅱ、発達検査論、老年期の心理学、教師論、教育学、道徳の指導法、特別活動の指導法

2　平成24年度以前の入学者は、前項の規定にかかわらず、この改正前の別表１の授業科目（以下「旧科目」という。）を履修することができる。ただし、各学部（共通教育科目にあっては教務委員会）が別に定める期間内に限る。

3　平成24年度以前の入学者が、次の表に定める改正後の別表１の授業科目（以下「新科目」という。）を履修したときは、対応する旧科目に読替える。

新科目	旧科目
英語基礎Ⅰ	英語Ⅰ（リーディング）
英語総合Ⅰ	英語Ⅰ（ライティング）
英語基礎Ⅱ	英語Ⅱ（リーディング）
英語総合Ⅱ	英語Ⅱ（ライティング）
心理テスト入門	心理検査法入門
心理テスト実習	心理検査法習

4　次の表の旧科目の単位を既に修得した者は、対応する新科目を履修できない。

新科目	旧科目
現代青年の心理学	青年心理学
パーソナリティ心理学	人格心理学
現代社会の心理学	社会心理学
対人関係の心理学	人間関係論
心理療法概論	心理療法技法論

（備考）

平成24年度以前の入学者が履修した新科目の単位は、相当する旧科目の属する科目区分に算入する。

5　平成21年度以前の入学生で、平成24年度までに総合演習の単位を修得していないものが、教育職員免許状の取得を希望するときは、取得を希望する校種に応じ、教職実践演習（中・高）又は教職実践演習（幼・小）の単位を修得しなければならない。

附　則（平成25年２月19日改正）

1　この改正は、平成26年４月１日から施行する。

附　則（平成25年３月26日改正）

1　この改正は、平成25年４月１日から施行する。

附　則（平成25年４月24日改正）

1　この改正は、平成25年５月１日から施行する。

附　則（平成26年１月21日改正）

1　この改正は、平成26年４月１日から施行する。

2　第10条、第11条及び別表１に係る改正は、平成26年度以後の入学者に適用し、平成25年度以前の入学者については、なお従前の例による。

3　平成25年度以前の入学者については、前項の規定にかかわらず、この改正後の別表１の授業科目の履修をもって改正前の別表１の授業科目を履修したものと読替える等の移行措置を講じるものとする。この場合の履修方法等については別に定める。

附　則（平成26年６月17日改正）

1　この改正は、平成26年６月17日から施行する。

附　則（平成27年２月17日改正）

1　この改正は、平成27年４月１日から施行する。ただし、第15条中、心理学部に係る改正及び別表１のうち心理学部の専門

教育科目に係る改正については、平成27年度以後の入学者に適用し、平成26年度以前の入学者については、なお従前の例による。

2　第15条中、人間文化学部に係る改正については、前項の規定にかかわらず、平成26年度以後の入学者に適用し、平成25年度以前の入学者については、なお従前の例による。

3　平成26年度以前の入学者は、第１項の規定にかかわらず、次に掲げる科目を履修することができる。ただし、国語学特講及びビジネスライティングについては、人間文化学部が別に定める期間内に限る。

国語学特講、ビジネスライティング、心理学英文講読（応用）

4　平成26年度以前の入学者が、この改正後の別表１の授業科目（以下「新科目」という。）のうち心理学英文講読（応用）の単位を修得したときは、改正前の別表１の授業科目（以下「旧科目」という。）のうち心理学英文講読の単位を修得したものとみなす。

5　旧科目のビジネスライティングの単位を修得した者は、新科目のキャリアとコミュニケーションを履修できない。

附　則（平成28年２月23日改正）

1　この改正は、平成28年４月１日から施行する。

2　前項の規定にかかわらず、別表１のうち共通教育科目及び生活福祉文化学部専門教育科目（大学コンソーシアム京都提供専用科目を除く。）に係る改正については、平成28年度以後の入学者に適用し、平成27年度以前の入学者については、なお従前の例による。

3　平成27年度以前の入学者で、老人福祉論Ⅰの単位を修得していないものは、前項の規定にかかわらず、改正後の別表１の授業科目のうち老人福祉論を履修することができる。この場合において、当該科目を履修したときは、老人福祉論Ⅰを履修したものと読替える。

4　平成27年度以前の入学者で、西洋美術史の単位を既に修得した者は、西洋美術史Ⅱを履修できない。

5　第１項の規定にかかわらず、別表１のうち司書に関する科目に係る改正については、平成29年度以後の入学者に適用し、平成28年度以前の入学者については、なお従前の例による。

6　平成28年度以前の入学者で、情報資源組織演習の単位を修得していないものは、前項の規定にかかわらず、改正後の別表１の授業科目のうち情報資源組織演習Ⅰ及び情報資源組織演習Ⅱを履修することができる。この場合において、当該２科目の単位を修得したときは、情報資源組織演習の単位を修得したものと読替える。

別表１（第11条関係）

区　分	授業科目	単位	必修単位	備考
《人間文化学部》				
共通教育科目				
基盤科目				
ライフキャリア形成科目	ノートルダム学Ⅰ	1	1	
	ノートルダム学Ⅱ	1	1	
	ノートルダム学Ⅲ	1	1	
	女性とライフキャリア	2		
	ホスピタリティ入門	2		人間文化学科に適用する。
	ホスピタリティ京都	2		
	キャリア形成	2		
	女性の子育てとライフキャリア	1		
	キャリア形成ゼミ	2		
	児童館実践演習	2		
	インターンシップ	2		
	インターンシップ認定	2		大学コンソーシアム京都が提供するインターンシップ科目
			計3	
カトリック教育科目	キリスト教入門	2	2	
	宗教音楽Ⅰ	0.5	0.5	
	宗教音楽Ⅱ	0.5	0.5	
	キリスト教思想	2	選択必修2	
	日本文化と宗教	2		
	西洋思想	2		
	死の哲学	2		
	キリスト教的死生観	2		
	聖書と文化	2		
	キリスト教音楽	2		
			計5	
基礎科目				
リテラシー・スポーツ科目	文章表現法	2		
	情報演習Ⅰ	1	1	
	情報演習Ⅱ	1		
	情報処理	2		
	健康スポーツ演習	2		
	健康スポーツ実習	1		
	体育講義	1		
	資格英語Ⅰ	2		人間文化学科に適用する。
	資格英語Ⅱ	2		
	認定日本語	2		
			計1	
外国語科目	英語基礎Ⅰ	1	1	人間文化学科のみ必修
	英語総合Ⅰ	1	1	
	英語基礎Ⅱ	1	1	
	英語総合Ⅱ	1	1	
	英語応用a	1		
	英語応用b	1		

区　分	授業科目	単位	必修単位	備考
	英語応用c	1		
	英語応用d	1		
	英語応用e	1		
	英語応用f	1		
	英語応用g	1		
	英語応用h	1		
	英語応用i	1		
	英語応用j	1		
	英会話（初級）	1		人間文化学科に適用する。
	英会話（中級）	1		
	ドイツ語Ⅰ	1		
	ドイツ語Ⅱ	1		
	フランス語Ⅰ	1		
	フランス語Ⅱ	1		
	スペイン語Ⅰ	1		
	スペイン語Ⅱ	1		
	朝鮮語Ⅰ	1		
	朝鮮語Ⅱ	1		
	朝鮮語Ⅲ	1		
	朝鮮語Ⅳ	1		
	朝鮮語Ⅴ	1		
	朝鮮語Ⅵ	1		
	中国語Ⅰ	1		
	中国語Ⅱ	1		
	中国語Ⅲ	1		
	中国語Ⅳ	1		
	中国語Ⅴ	1		
	中国語Ⅵ	1		
	アラビア語Ⅰ	1		
	アラビア語Ⅱ	1		
	アラビア語Ⅲ	1		
	アラビア語Ⅳ	1		
	日本語講読Ⅰ	1	1	外国人留学生専用
	日本語講読Ⅱ	1	1	
	日本語表現Ⅰ	1	1	
	日本語表現Ⅱ	1	1	
	日本語特講Ⅰ	1	1	
	日本語特講Ⅱ	1	1	
	資格日本語	2		
			計	
			人間文化8	
			留学生8	
教養科目				
教養科目	（人間と文化）			
	人間学	2		
	日本古代中世史	2		
	日本近世近代史	2		

区　分	授業科目	単位	必修単位	備考
	西洋史	2		
	東洋史	2		
	日本文学	2		
	外国文学	2		
	心理学概論	2		
	文化人類学	2		
	（生活と社会）			
	法学概論	2		
	日本国憲法	2		
	経済学概論	2		
	社会学概論	2		
	女性学概論	2		
	女性の権利	2		
	ボランティア概論	2		
	実践の子ども学	2		
	子どもと子育てのための生活環境学	1		
	（人間と自然）			
	地球と宇宙の科学	2		
	環境学概論	2		
	医学概論Ⅰ	2		
	医学概論Ⅱ	2		
	病児の発達と支援	2		
	生命倫理	2		
	身近な自然科学入門	2		
	暮らしの統計学	2		
特定科目				６単位を限度とする。
	特定目的海外研修			各年度の開講科目は別に定める。
	ボランティア実践	1		
英語英文学科専門教育科目				
専門基礎科目	Reading Ⅰ	2	2	
	Reading Ⅱ	2	2	
	Writing Ⅰ	2	2	
	Writing Ⅱ	2	2	
	Advanced Reading Ⅰ	2	2	
	Advanced Reading Ⅱ	2	2	
	Advanced Writing Ⅰ	2	2	
	Advanced Writing Ⅱ	2	2	
	Listening Ⅰ	1	1	
	Listening Ⅱ	1	1	
	Speaking Ⅰ	1	1	
	Speaking Ⅱ	1	1	
	Advanced Listening Ⅰ	1	1	
	Advanced Listening Ⅱ	1	1	
	Advanced Speaking Ⅰ	1	1	

区　分	授業科目	単位	必修単位	備考
	Advanced Speaking Ⅱ	1	1	
	Academic Reading Ⅰ	2	2	
	Academic Reading Ⅱ	2	2	
	Academic Writing Ⅰ	2	2	
	Academic Writing Ⅱ	2	2	
	Communication Skills Ⅰ	1		
	Communication Skills Ⅱ	1		
	Communication Skills Ⅲ	1		
	Communication Skills Ⅳ	1		
	英文法Ⅰ	2		
	英文法Ⅱ	2		
	英文法Ⅲ	2		
	英文法Ⅳ	2		
	イングリッシュ・チャレンジⅠ	2		
	イングリッシュ・チャレンジⅡ	2		
	英語キャリア戦略	2		
	TOEIC Ⅰ	2		
	TOEIC Ⅱ	2		
	TOEIC Ⅲ	2		
	TOEIC Ⅳ	2		
	TOEFL Ⅰ	2		
	TOEFL Ⅱ	2		
	Writing Lab Ⅰ	0.5		
	Writing Lab Ⅱ	0.5		
	Reading Lab Ⅰ	0.5		
	Reading Lab Ⅱ	0.5		
	Writing Lab Ⅲ	0.5		
	Writing Lab Ⅳ	0.5		
	Reading Lab Ⅲ	0.5		
	Reading Lab Ⅳ	0.5		
	スピーチⅠ	2		
	スピーチⅡ	2		
	同時通訳入門	2		
	同時通訳法Ⅰ	2		
	同時通訳法Ⅱ	2		
	ビジネス英語	2		
	海外留学Ⅰa	1		
	海外留学Ⅰb	1		
	海外留学Ⅱa	2		
	海外留学Ⅱb	2		
	海外留学Ⅲa	4		
	海外留学Ⅲb	4		
	海外留学Ⅲc	4		
	海外留学Ⅲd	4		
	海外留学Ⅲe	4		
	海外留学Ⅲf	4		

区　分	授業科目	単位	必修単位	備考
専門基幹科目	英語英文学基礎演習Ⅰ	2	2	
	英語英文学基礎演習Ⅱ	2	2	
	英米文学概論	2	2	
	言語学概論	2	2	
	コミュニケーション学概論	2	2	
	専門講読Ⅰa	2		
	専門講読Ⅰb	2		
	専門講読Ⅰc	2		
	専門講読Ⅰd	2		
	専門講読Ⅱa	2		
	専門講読Ⅱb	2		
	専門講読Ⅱc	2		
	専門講読Ⅱd	2		
	専門講読Ⅲ	2		
	専門講読Ⅳ	2		
専門展開科目（グローバル英語コース）				
	(Japanese Culture & Global Awareness領域)			
	Global English Lecture Ⅰa	2		
	Global English Lecture Ⅱa	2		
	Global English Lecture Ⅲa	2		
	Global English Workshop Ⅰa	3		
	Global English Workshop Ⅱa	3		
	(Literature & Global Culture領域)			
	Global English Lecture Ⅰb	2		
	Global English Lecture Ⅱb	2		
	Global English Lecture Ⅲb	2		
	Global English Workshop Ⅰb	3		
	Global English Workshop Ⅱb	3		
	(Language & Global Communication領域)			
	Global English Lecture Ⅰc	2		
	Global English Lecture Ⅱc	2		
	Global English Lecture Ⅲc	2		
	Global English Workshop Ⅰc	3		
	Global English Workshop Ⅱc	3		
	（３領域共通）			
	Global English Colloquium Ⅰ	2		
	Global English Colloquium Ⅱ	2		
	Global English Colloquium Ⅲ	2		グローバル英語コース必修
	Global English Colloquium Ⅳ	2		グローバル英語コース必修
	海外留学事前指導	1		
	海外留学事後指導	1		
専門展開科目	（英語英文学領域）			
	英文学の歴史	2		

区　分	授業科目	単位	必修単位	備考
	米文学の歴史	2		
	映画論	2		
	児童文学	2		
	文学と女性	2		
	英語圏文化	2		
	アメリカの社会と文化	2		
	（言語学領域）			
	英語の歴史	2		
	ことばのしくみ	2		
	ことばと社会	2		
	ことばと認知	2		
	英語のサウンド研究	2		
	（コミュニケーション領域）			
	対人コミュニケーション	2		
	異文化間コミュニケーション	2		
	言語、文化、コミュニケーション	2		
	コンピュータネットワークコミュニケーション	2		
	マルチメディア研究	2		
専門関連科目	（英語教育領域）			
	英語科教育法Ⅰ	2		
	英語科教育法Ⅱ	2		
	英語科教育法Ⅲ	2		
	英語科教育法Ⅳ	2		
	児童英語教育Ⅰ	2		
	児童英語教育Ⅱ	2		
	子どものための英語教育Ⅰ	2		
	子どものための英語教育Ⅱ	2		
	応用言語学	2		
	英語教材作成演習	2		
	外国語としての日本語	2		
	子ども英語のための音声指導	2		
	子ども英語授業演習	2		
	スクールインターンシップ	2		
	（エアラインプログラム科目）			
	ホスピタリティ論Ⅰ	2		
	ホスピタリティ論Ⅱ	2		
	エアライン・ビジネス論	2		
	エアライン・サービス論	2		
	旅行観光業研究	2		
	ホテルビジネス研究	2		
	ホスピタリティ・スキル	2		
	フィールド研究	2		
	接遇のための日本語	1		

区　分	授業科目	単位	必修単位	備考
	接遇のための英語	1		
	ビジネスマナー演習	1		
	キャリアデベロップメント	1		
	エアラインインターンシップ	2		
	エアライン研修	2		
	(医療サポート語学プログラム科目)			
	医療サポート英語Ⅰ	2		
	医療サポート英語Ⅱ	2		
	医療サポート語学プログラム病院研修	1		
	病院インターンシップ	2		
	(プレゼンテーション実務士科目)			
	プレゼンテーション概論	2		
	プレゼンテーション演習	2		
大学コンソーシアム京都提供専用科目	オンライン版英国文化研究Ⅰ	2		
	オンライン版英国文化研究Ⅱ	2		
専門演習・卒業研究	英語英文学演習Ⅰ	2	2	
	英語英文学演習Ⅱ	2	2	
	卒業研究	8	8	
			計54	
人間文化学科専門教育科目				
基礎科目	日本語コミュニケーションⅠ	2	2	
	日本語コミュニケーションⅡ	2	2	
	日本語コミュニケーションⅢ	2	2	
展開科目	(日本語・日本文化領域)			
	国文学概論	2		
	国語学概論	2		
	日本古典文学講読	2		
	日本近代文学講読	2		
	日本語文法	2		
	日本語研究	2		
	言語学概論	2		
	書写研究	2		
	日本文学特講	2		
	日本伝統文化論	2		
	日本年中行事論	2		
	京都学	2		
	京都フィールドワーク研究	2		
	日本語教育入門	2		
	日本文化論	2		
	日本語表現	2		
	プレゼンテーション概論	2		
	プレゼンテーション演習	2		
	日本語の朗読	2		
	スピーチの基礎	2		

区　分	授業科目	単位	必修単位	備考
	キャリアとコミュニケーション	2		
	古文書読解	2		
	（読書と情報の文化領域）			
	現代ジャーナリズム論	2		
	情報システム論	2		
	インターネット社会論	2		
	情報科学応用	2		
	情報科学概論	2		
	情報科学演習Ⅰ	2		
	情報科学演習Ⅱ	2		
	情報･メディアの文化とリテラシー	2		
	子どもの読書とメディア	2		
	識字活動と子どもの権利	2		
	昔話とストーリーテリング	2		
	現代出版事情	2		
	出版文化史	2		
	ウェブデザインⅠ	2		
	ウェブデザインⅡ	2		
	ウェブデザイン演習	2		
	ウェブプログラミング演習	2		
	マルチメディア演習	2		
	グラフィックデザインと冊子制作	2		
	色彩デザイン論	2		
	博物館情報・メディア論	2		
	図書館情報技術論	2		
	（多文化理解領域）			
	比較文化概論	2		
	国際関係論	2		
	ヨーロッパ文化論	2		
	言語文化概論	2		漢字文化史
	日中近代語彙比較論	2		
	漢文学入門	2		
	漢文学特講	2		
	朝鮮（コリアン）文化論	2		
	アラブ文学特講	2		
	比較文学講読	2		
	多文化理解	2		
	中東文化論	2		
	（芸術と思想領域）			
	キリスト教美術概論	2		
	西洋美術史Ⅰ	2		
	西洋美術史Ⅱ	2		
	西洋美術史特講	2		

区　分	授業科目	単位	必修単位	備考
	博物館概論	2		
	芸術への誘い	2		
	音楽鑑賞法	2		
	音楽学特講	2		
	音楽文化概論	2		
	歌曲論	2		
	典礼音楽特講	2		
	西洋思想史（古代・中世）	2		
	西洋思想史（近世）	2		
	哲学とキリスト教	2		
	日本思想	2		
	日本美術史	2		
	日本美術特講	2		
	キリスト教とラテン語Ⅰ	2		
	キリスト教とラテン語Ⅱ	2		
専門演習・卒業研究	基礎演習Ⅰ	2	2	
	基礎演習Ⅱ	2	2	
	発展演習Ⅰ	2	2	
	発展演習Ⅱ	2	2	
	専門演習Ⅰ	2	2	
	専門演習Ⅱ	2	2	
	卒業研究	8	8	
			計26	
学際教育科目				
他学部・他学科専門教育科目				開設学部学科が受講を認める科目に限る。
他大学等単位互換科目				８単位を限度とする。
	大学コンソーシアム京都の単位互換科目			大学コンソーシアム京都の単位互換履修生募集ガイドに掲載された科目
	協定大学単位互換科目			他大学との協定（大学コンソーシアム京都に係るものを除く。）による科目

【人間文化学部履修条件】

1．英語英文学科における共通教育科目（計16単位以上）の履修条件は、次のとおりとする。
　ア．基盤科目　　必修６単位　選択必修２単位以上
　イ．基礎科目　　必修１単位
　ウ．ア以外の基盤科目、基礎科目のうちイ及び外国語科目の英会話（初級・中級）を除く科目、教養科目（ただし、うち特定科目は６単位を上限とする。）　選択７単位以上

2．人間文化学科における共通教育科目（計26単位以上）の履修条件は、次のとおりとする。
　ア．基盤科目　　必修６単位　選択必修２単位
　イ．基礎科目　　必修５単位
　ウ．基礎科目のうち必修の外国語科目以外の外国語科目
　　選択必修４単位
　エ．ア以外の基盤科目、イ及びウ以外の基礎科目、教養科目（ただし、うち特定科目は６単位を上限とする。）選択９単位以上

3．外国人留学生は、２のイ及びウの外国語科目に係る規定にかかわらず、外国語科目として日本語講読Ⅰ・Ⅱ、日本語表現Ⅰ・Ⅱ、日本語特講Ⅰ・Ⅱの６単位を必修とし、必修の外国語科目以外の外国語科目２単位を選択必修とする。

4．外国語科目のうち母語及び母国語にあたる科目を履修することはできない。

5．英語英文学科専門教育科目（88単位以上）の履修条件は、次のとおりとする。
　ア．専門基礎科目　　必修　　32単位
　イ．専門基幹科目　　必修　　10単位
　ウ．専門展開科目　　選択必修　16単位
　（ただし、グローバル英語コース履修者は、専門展開科目（グローバル英語コース科目）から、コース必修科目４単位を含んで16単

位を履修すること。）

エ．ア～ウで単位を修得したもの以外の専門教育科目　　選択　　18単位以上

オ．専門演習・卒業研究　　必修　　12単位

6．人間文化学科専門教育科目（72単位以上）の履修条件は、次のとおりとする。

ア．基礎科目　　必修６単位

イ．展開科目　　選択46単位以上

ウ．専門演習・卒業研究　　必修20単位

7．学際教育科目の履修条件は、英語英文学科０～20単位、人間文化学科０～26単位とする。ただし、他学部・他学科専門教育科目は20単位、他大学等単位互換科目は８単位を上限とする。

8．上記の条件を満たし、かつ、共通教育科目、専門教育科目及び学際教育科目全体で合計124単位以上を修得しなければならない。

区分	授業科目	単位	必修単位	保育士養成課程		備考
				必修単位	選択単位	
《生活福祉文化学部》						
共通教育科目						
基盤科目						
ライフキャリア形成科目	ノートルダム学Ⅰ	1	1	(1)		
	ノートルダム学Ⅱ	1	1	(1)		
	ノートルダム学Ⅲ	1	1	(1)		
	女性とライフキャリア	2				
	ホスピタリティ入門	2				
	ホスピタリティ京都	2				
	キャリア形成	2				
	女性の子育てとライフキャリア	1				
	キャリア形成ゼミ	2				
	児童館実践演習	2				
	インターンシップ	2				
	インターンシップ認定	2				大学コンソーシアム京都が提供するインターンシップ科目
			計3			
カトリック教育科目	キリスト教入門	2	2	2		
	宗教音楽Ⅰ	0.5	0.5	0.5		
	宗教音楽Ⅱ	0.5	0.5	0.5		
	キリスト教思想	2	選択必修2	選択必修2		
	日本文化と宗教	2				
	西洋思想	2				
	死の哲学	2				
	キリスト教的死生観	2				
	聖書と文化	2				
	キリスト教音楽	2				
			計5			
基礎科目						
リテラシー・スポーツ科目	文章表現法	2				
	情報演習Ⅰ	1	1	1		
	情報演習Ⅱ	1				
	情報処理	2				
	健康スポーツ演習	2				
	健康スポーツ実習	1		1		
	体育講義	1		1		
	資格英語Ⅰ	2				
	資格英語Ⅱ	2				
	認定日本語	2				
			計1			
外国語科目	英語基礎Ⅰ	1	1	1		
	英語総合Ⅰ	1	1	1		
	英語基礎Ⅱ	1	1	1		
	英語総合Ⅱ	1	1	1		
	英語応用a	1				
	英語応用b	1				

区　分	授業科目	単位	必修単位	保育士養成課程		備　考
				必修単位	選択単位	
	英語応用c	1				
	英語応用d	1				
	英語応用e	1				
	英語応用f	1				
	英語応用g	1				
	英語応用h	1				
	英語応用i	1				
	英語応用j	1				
	英会話（初級）	1				
	英会話（中級）	1				
	ドイツ語Ⅰ	1				
	ドイツ語Ⅱ	1				
	フランス語Ⅰ	1				
	フランス語Ⅱ	1				
	スペイン語Ⅰ	1				
	スペイン語Ⅱ	1				
	朝鮮語Ⅰ	1				
	朝鮮語Ⅱ	1				
	朝鮮語Ⅲ	1				
	朝鮮語Ⅳ	1				
	朝鮮語Ⅴ	1				
	朝鮮語Ⅵ	1				
	中国語Ⅰ	1				
	中国語Ⅱ	1				
	中国語Ⅲ	1				
	中国語Ⅳ	1				
	中国語Ⅴ	1				
	中国語Ⅵ	1				
	アラビア語Ⅰ	1				
	アラビア語Ⅱ	1				
	アラビア語Ⅲ	1				
	アラビア語Ⅳ	1				
	日本語講読Ⅰ	1	1			外国人留学生専用
	日本語講読Ⅱ	1	1			
	日本語表現Ⅰ	1	1			
	日本語表現Ⅱ	1	1			
	日本語特講Ⅰ	1	1			
	日本語特講Ⅱ	1	1			
	資格日本語	2				
			計6			
			留学生8			
教養科目						
教養科目	（人間と文化）					
	人間学	2				
	日本古代中世史	2				

区　分	授業科目	単位	必修単位	保育士養成課程		備　考
				必修単位	選択単位	
	日本近世近代史	2				
	西洋史	2				
	東洋史	2				
	日本文学	2				
	外国文学	2				
	心理学概論	2				
	文化人類学	2				
	（生活と社会）					
	法学概論	2				
	日本国憲法	2				
	経済学概論	2				
	社会学概論	2				
	女性学概論	2				
	女性の権利	2				
	ボランティア概論	2				
	実践の子ども学	2				
	子どもと子育てのための生活環境学	1				
	（人間と自然）					
	地球と宇宙の科学	2				
	環境学概論	2				
	医学概論Ⅰ	2				
	医学概論Ⅱ	2				
	病児の発達と支援	2				
	生命倫理	2				
	身近な自然科学入門	2				
	暮らしの統計学	2				
特定科目						６単位を限度とする。
	特定目的海外研修					各年度の開講科目は別に定める。
	ボランティア実践	1				
生活福祉文化学科専門教育科目						
基幹科目	ライフデザイン基礎論	2	2	(2)		
	ソーシャルワーク基礎論	2	2	(2)		
	生活福祉文化基礎演習Ⅰ	2	2	(2)		
	生活福祉文化基礎演習Ⅱ	2	2	(2)		
	生活福祉文化基礎演習Ⅲ	1	1	(1)		
	生活福祉文化基礎演習Ⅳ	1	1	(1)		
展開科目	（ライフデザイン領域）					
	衣生活学―福祉の視点より―	2				
	衣生活材料学	2				
	アパレルデザイン	2				
	アパレル造形学（実習を含む）	2				
	衣生活情報論	2				
	衣生活文化史	2				

区　分	授業科目	単位	必修単位	保育士養成課程		備　考
				必修単位	選択単位	
	服飾文化論	2				
	食品学	2				
	食品安全性学	2				
	食品加工学（実験を含む）	3				
	食品官能評価論	2				
	食品流通論	2				
	栄養学概論	2			＊2	
	フードスペシャリスト論	2				
	調理学	2				
	ベーシックキュイズィーン（基礎調理実習）	2				
	アドバンストキュイズィーン（応用調理実習）	2				
	フードコーディネート論	2				
	ライフステージと食生活	2			＊2	
	福祉と食生活	2			＊2	
	住環境学（製図を含む）	2				
	住生活学	2				
	住宅論	2				
	住居史	2				
	空間意匠論	2				
	福祉住環境学	2				
	住居製図Ⅰ	1				
	住居製図Ⅱ	1				
	住計画演習Ⅰ	2				
	住計画演習Ⅱ	2				
	設計方法論	2				
	建築法規	2				
	建築一般構造	2				
	建築構造力学	2				
	建築施工	2				
	建築材料学	2				
	西洋建築史	2				
	デザイン論Ⅰ	2				
	デザイン論Ⅱ	2				
	色彩学	2				
	家庭電気・機械及び情報処理	2				
	京都衣生活論	2				
	京都食生活論	2				
	京都住生活論	2				
	京都生活産業実習	2				
	ビジネスの基礎	2				
	マーケティング論	2				
	女性起業論	2				
	家庭教育学	2			＊2	
	家庭管理	2				

区　分	授業科目	単位	必修単位	保育士養成課程		備　考
				必修単位	選択単位	
	家庭経済	2				
	家族関係	2			＊2	
	消費者教育	2				
	保育学（実習及び家庭看護を含む）	2				
	健康科学概論	2			＊2	
	家庭科教育法Ⅰ（生活の自立と衣食住）	2				
	家庭科教育法Ⅱ（家族・家庭生活と福祉）	2				
	家庭科教育法Ⅲ（指導法と教材作成）	2				
	家庭科教育法Ⅳ（模擬授業）	2				
	（ソーシャルワーク領域）					
	社会福祉原論Ⅰ	2		2		職業指導を含む。
	社会福祉原論Ⅱ	2			＊2	
	老人福祉論	2				
	障害者福祉論	2			＊2	
	児童福祉論	2		2		
	社会福祉援助技術Ⅰ	2			＊2	
	社会福祉援助技術Ⅱ	2			＊2	
	社会福祉援助技術Ⅲ	2			＊2	
	社会福祉援助技術Ⅳ	2			＊2	
	社会福祉援助技術Ⅴ	2			＊2	
	社会福祉援助技術Ⅵ	2			＊2	
	社会福祉援助技術演習Ⅰ	2		2		
	社会福祉援助技術演習Ⅱ	2			＊2	
	社会福祉援助技術演習Ⅲ	1			＊1	
	社会福祉援助技術実習指導Ⅰ	2				
	社会福祉援助技術実習指導Ⅱ	2				
	社会福祉援助技術実習指導Ⅲ	1				
	社会福祉援助技術現場実習	6				
	医学一般Ⅰ	2				
	医学一般Ⅱ	2				
	社会保障論Ⅰ	2				
	社会保障論Ⅱ	2				
	公的扶助論	2			＊2	
	地域福祉論Ⅰ	2			＊2	
	地域福祉論Ⅱ	2			＊2	
	福祉行財政と福祉計画	2				
	社会福祉運営論	2				
	就労支援	1				
	権利擁護と成年後見制度	2				
	更生保護制度	1				
	社会福祉調査法Ⅰ	2				
	社会福祉調査法Ⅱ	2				

区　分	授業科目	単位	必修単位	保育士養成課程		備　考
				必修単位	選択単位	
	介護概論	2				
	介護技術	2				
	精神医学Ⅰ	2				
	精神医学Ⅱ	2				
	精神保健学Ⅰ	2				
	精神保健学Ⅱ	2			＊2	
	精神科リハビリテーション学Ⅰ	2				
	精神科リハビリテーション学Ⅱ	2				
	精神保健福祉論Ⅰ	2				
	精神保健福祉論Ⅱ	2				
	精神保健福祉論Ⅲ	2				
	精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	2				
	精神保健福祉援助技術各論Ⅰ	2				
	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ	2				
	精神保健福祉援助演習（専門）Ⅰ	1				
	精神保健福祉援助演習（専門）Ⅱ	1				
	精神保健福祉援助実習指導	3				
	精神保健福祉援助実習Ⅰ	2				
	精神保健福祉援助実習Ⅱ	2				
	精神保健福祉援助実習Ⅲ	3				
	レクリエーション論	2			＊2	
	リハビリテーション論	2				
関連科目	保育原理Ⅰ	2		2		
	保育原理Ⅱ	2		2		
	養護原理	2		2		
	教育学	2		2		
	保育の心理学Ⅰ	2		2		
	保育の心理学Ⅱ	1		1		
	小児保健Ⅰ	2		2		
	小児保健Ⅱ	2		2		
	小児保健演習	1		1		
	小児栄養	2		2		
	家族援助論	2		2		
	保育課程論	2		2		
	保育内容総論	1		1		
	保育内容Ⅰ	1		1		
	保育内容Ⅱ	2		2		
	保育内容Ⅲ	2		2		
	乳児保育	2		2		
	障害児保育	2		2		
	養護内容	1		1		
	保育相談支援	1		1		
	基礎技能音楽Ⅰ	1		1		
	基礎技能音楽Ⅱ	1		1		
	基礎技能造形	1		1		

区　分	授業科目	単位	必修単位	保育士養成課程		備考
				必修単位	選択単位	
	基礎技能体育	1		1		
	基礎技能演習	1			＊1	
	子どもと言語表現	2			＊2	
	保育実習指導Ⅰ	2		2		
	保育実習指導Ⅱ	1			1	
	保育実習指導Ⅲ	1			1	
	保育実習Ⅰ－1	2		2		
	保育実習Ⅰ－2	2		2		
	保育実習Ⅱ	2			2	
	保育実習Ⅲ	2			2	
	保育総合演習	2		2		
大学コンソーシアム京都提供専用科目	相談支援	2				
専門演習・卒業研究	生活福祉文化特論	4	4	(4)		
	卒業研究	8	8	(8)		
			計22			
学際教育科目						
他学部・他学科専門教育科目						開設学部学科が受講を認める科目に限る。
他大学等単位互換科目						８単位を限度とする。
	大学コンソーシアム京都の単位互換科目					大学コンソーシアム京都の単位互換履修生募集ガイドに掲載された科目
	協定大学単位互換科目					他大学との協定（大学コンソーシアム京都に係るものを除く。）による科目

【生活福祉文化学部履修条件】

1．共通教育科目（22単位以上）の履修条件は、次のとおりとする。

ア．基盤科目　　必修６単位　選択必修２単位

イ．基礎科目　　必修５単位

ただし、外国人留学生は、イの外国語科目に係る規定にかかわらず、日本語講読Ⅰ・Ⅱ、日本語表現Ⅰ・Ⅱ、日本語特講Ⅰ・Ⅱの６単位を必修とする。

ウ．基礎科目のうち必修の外国語科目以外の外国語科目

選択必修２単位

エ．ア以外の基盤科目、イ及びウ以外の基礎科目、教養科目（うち特定科目は６単位を上限とする。）

選択７単位以上（ただし、外国人留学生にあっては５単位以上）

オ．外国語科目のうち母語及び母国語にあたる科目を履修することはできない。

2．生活福祉文化学科専門教育科目（82単位以上）の履修条件は、次のとおりとする。

ア．基幹科目　　必修10単位

イ．展開科目及び関連科目から

選択必修60単位以上

ウ．専門演習・卒業研究　　必修12単位

3．学際教育科目の履修条件は、０～20単位とする。ただし、他大学等単位互換科目は８単位を上限とする。

〔保育士養成課程〕

ア．必修単位

基盤科目	５単位
基礎科目	７単位
	小計12単位
専門教育科目・展開科目	６単位
専門教育科目・関連科目	46単位
小計52単位	

イ．選択単位の＊は、「保育の本質・目的に関する科目」「保育の対象の理解に関する科目」「保育の内容・方法に関する科目」「保育の表現技術」の系列のうちから６単位以上を修得しなければならない。

「保育実習」系列は、保育実習Ⅱ又はⅢ２単位及び保育実習指導Ⅱ又はⅢ１単位の計３単位を選択必修とする。

ウ．必修単位の（　）は、資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開設されており、卒業要件として必修科目。

共通教育科目

基盤科目	必修３単位

専門教育科目

基幹科目	必修10単位
専門演習・卒業研究	必修12単位

区分	授業科目	単位	必修単位	備考
《心理学部》				
共通教育科目				
基盤科目				
ライフキャリア形成科目	ノートルダム学Ⅰ	1	1	
	ノートルダム学Ⅱ	1	1	
	ノートルダム学Ⅲ	1	1	
	女性とライフキャリア	2		
	ホスピタリティ入門	2		
	ホスピタリティ京都	2		
	キャリア形成	2		
	女性の子育てとライフキャリア	1		
	キャリア形成ゼミ	2		
	児童館実践演習	2		
	インターンシップ	2		
	インターンシップ認定	2		大学コンソーシアム京都が提供するインターンシップ科目
			計3	
カトリック教育科目	キリスト教入門	2	2	
	宗教音楽Ⅰ	0.5	0.5	
	宗教音楽Ⅱ	0.5	0.5	
	キリスト教思想	2	選択必修2	
	日本文化と宗教	2		
	西洋思想	2		
	死の哲学	2		
	キリスト教的死生観	2		
	聖書と文化	2		
	キリスト教音楽	2		
			計5	
基礎科目				
リテラシー・スポーツ科目	文章表現法	2		
	情報演習Ⅰ	1	1	
	情報演習Ⅱ	1		
	情報処理	2		
	健康スポーツ演習	2		
	健康スポーツ実習	1		
	体育講義	1		
	資格英語Ⅰ	2		
	資格英語Ⅱ	2		
	認定日本語	2		
			計1	
外国語科目	英語基礎Ⅰ	1	1	
	英語総合Ⅰ	1	1	
	英語基礎Ⅱ	1	1	
	英語総合Ⅱ	1	1	
	英語応用a	1		
	英語応用b	1		
	英語応用c	1		
	英語応用d	1		

区　分	授業科目	単位	必修単位	備考
	英語応用e	1		
	英語応用f	1		
	英語応用g	1		
	英語応用h	1		
	英語応用i	1		
	英語応用j	1		
	英会話（初級）	1		
	英会話（中級）	1		
	ドイツ語Ⅰ	1		
	ドイツ語Ⅱ	1		
	フランス語Ⅰ	1		
	フランス語Ⅱ	1		
	スペイン語Ⅰ	1		
	スペイン語Ⅱ	1		
	朝鮮語Ⅰ	1		
	朝鮮語Ⅱ	1		
	朝鮮語Ⅲ	1		
	朝鮮語Ⅳ	1		
	朝鮮語Ⅴ	1		
	朝鮮語Ⅵ	1		
	中国語Ⅰ	1		
	中国語Ⅱ	1		
	中国語Ⅲ	1		
	中国語Ⅳ	1		
	中国語Ⅴ	1		
	中国語Ⅵ	1		
	アラビア語Ⅰ	1		
	アラビア語Ⅱ	1		
	アラビア語Ⅲ	1		
	アラビア語Ⅳ	1		
	日本語講読Ⅰ	1	1	外国人留学生専用
	日本語講読Ⅱ	1	1	外国人留学生専用
	日本語表現Ⅰ	1	1	外国人留学生専用
	日本語表現Ⅱ	1	1	外国人留学生専用
	日本語特講Ⅰ	1	1	外国人留学生専用
	日本語特講Ⅱ	1	1	外国人留学生専用
	資格日本語	2		外国人留学生専用
			計8	
			留学生8	
教養科目				
教養科目	（人間と文化）			
	人間学	2		
	日本古代中世史	2		
	日本近世近代史	2		
	西洋史	2		
	東洋史	2		
	日本文学	2		

区　分	授業科目	単位	必修単位	備考
	外国文学	2		
	心理学概論	2		
	文化人類学	2		
	（生活と社会）			
	法学概論	2		
	日本国憲法	2		
	経済学概論	2		
	社会学概論	2		
	女性学概論	2		
	女性の権利	2		
	ボランティア概論	2		
	実践の子ども学	2		
	子どもと子育てのための生活環境学	1		
	（人間と自然）			
	地球と宇宙の科学	2		
	環境学概論	2		
	医学概論Ⅰ	2		
	医学概論Ⅱ	2		
	病児の発達と支援	2		
	生命倫理	2		
	身近な自然科学入門	2		
	暮らしの統計学	2		
特定科目				６単位を限度とする。
	特定目的海外研修			各年度の開講科目は別に定める。
	ボランティア実践	1		
現代心理専攻				
専門教育科目				
基礎科目	心理学基礎演習Ⅰ	2	2	
	心理学基礎演習Ⅱ	2	2	
	心理学概論（心と行動）	2	2	
	心理学概論（心と社会）	2	2	
	心理統計法Ⅰ	2	2	
	心理統計法Ⅱ	2	2	
	心理テスト入門	2		
	心理テスト実習	1		
	心理学研究法	2	2	
	初級実験実習Ⅰ	1	1	
	初級実験実習Ⅱ	1	1	
	現代社会調査入門	2		
	質問紙調査法	2	2	
	推測統計学Ⅰ	2	2	
	推測統計学Ⅱ	2	2	
	中級実験実習	1		
	心理学情報処理	2		

区　分	授業科目	単位	必修単位	備考
展開科目	児童心理学	2		
	学校教育の心理学	2		障害のある幼児、児童及び生徒の発達及び学習の過程を含む。
	生活環境の心理学	2		
	知覚心理学	2		
	現代青年の心理学	2		
	対人関係の心理学	2		
	パーソナリティ心理学	2		
	学習の心理学	2		
	乳幼児心理学	2		
	家族心理学	2		
	認知心理学	2		
	現代社会の心理学	2		
	産業心理学	2		
	現代社会調査演習Ⅰ	2		
	現代社会調査演習Ⅱ	2		
	神経心理学	2		
	障害児心理学	2		
	犯罪心理学	2		
	心理関係法規論	2		
関連科目	学校教育概論	2		
	保育概論	2		
	臨床心理学概論	2		
	カウンセリング概論	2		
	無意識の心理学	2		
	臨床心理アセスメント	2		
	教育方法学	2		情報機器及び教材の活用を含む。
	老年期の心理学	2		
	発達検査論	2		
	学校臨床心理学	2		
	教育相談論	2		カウンセリングに関する基礎知識を含む。
	生徒指導・進路指導	2		
	心理療法概論	2		
	精神医学Ⅰ	2		
	精神医学Ⅱ	2		
	環境教育	2		
	情報教育	2		
	情報科学概論	2		
	心理学英文講読（基礎）	2		
	心理学英文講読（応用）	2		
	心理・教育フィールド研修a	1		
	心理・教育フィールド研修b	1		
	心理・教育フィールド研修c	1		
	心理・教育フィールド研修d	1		
	現代ジャーナリズム論	2		
	ビジネスの基礎	2		
	マーケティング論	2		

区分	授業科目	単位	必修単位	備考
専門演習・卒業研究	心理学演習Ⅰ	4	4	
	心理学演習Ⅱ	4	4	
	卒業研究	8	8	
			計38	
学校心理専攻専門教育科目				
基礎科目	心理学基礎演習Ⅰ	2	2	
	心理学基礎演習Ⅱ	2	2	
	心理学概論（心と行動）	2	2	
	心理学概論（心と社会）	2	2	
	心理統計法Ⅰ	2	＊	＊から５単位選択必修
	心理統計法Ⅱ	2	＊	
	心理テスト入門	2		
	心理テスト実習	1		
	心理学研究法	2	＊	
	初級実験実習Ⅰ	1	＊	
	初級実験実習Ⅱ	1	＊	
	現代社会調査入門	2		
	質問紙調査法	2		
	推測統計学Ⅰ	2		
	推測統計学Ⅱ	2		
	中級実験実習	1		
	心理学情報処理	2		
展開科目	学校教育概論	2	2	
	学習の心理学	2		
	学校教育の心理学	2	2	障害のある幼児、児童及び生徒の発達及び学習の過程を含む。
	教育方法学	2		情報機器及び教材の活用を含む。
	教育社会学	2		
	教育経営論	2		
	乳幼児心理学	2		
	児童心理学	2	2	
	現代青年の心理学	2		
	家族心理学	2		
	障害児心理学	2		
	認知心理学	2		
	発達検査論	2		
	臨床心理学概論	2		
	パーソナリティ心理学	2		
	カウンセリング概論	2		
	教育課程論	2		
	保育概論	2		
	学校臨床心理学	2		
	教育評価	2		
	生徒指導・進路指導	2		
	教育相談論	2		カウンセリングに関する基礎知識を含む。
	環境教育	2		
	情報教育	2		

区　分	授業科目	単位	必修単位	備考
関連科目	食と健康の教育	2		
	教職専門ゼミナール	1		
	老年期の心理学	2		
	知覚心理学	2		
	現代社会の心理学	2		
	国語科教育	2		
	読書指導と読解力	2		
	書写	1		
	社会科教育	2		
	算数科教育	2		
	理科教育	2		
	生活科教育	2		
	音楽科教育	2		
	図工科教育	2		
	家庭科教育	2		
	体育科教育	2		
	国語科指導法	2		書写を含む。
	社会科指導法	2		
	算数科指導法	2		
	理科指導法	2		
	生活科指導法	2		
	音楽科指導法	2		
	図工科指導法	2		
	家庭科指導法	2		
	体育科指導法	2		
	保育内容指導法（健康）	2		
	保育内容指導法（人間関係）	2		
	保育内容指導法（環境）	2		
	保育内容指導法（言葉）	2		
	保育内容指導法（表現）	2		
	教師論	2		
	教育学	2		
	道徳の指導法	2		
	特別活動の指導法	2		
	情報科学概論	2		
	神経心理学	2		
	対人関係の心理学	2		
	犯罪心理学	2		
	心理関係法規論	2		
	精神医学Ⅰ	2		
	精神医学Ⅱ	2		
	無意識の心理学	2		
	心理学英文講読（基礎）	2		
	心理学英文講読（応用）	2		
	心理・教育フィールド研修a	1		
	心理・教育フィールド研修b	1		

区　分	授業科目	単位	必修単位	備考
	心理・教育フィールド研修c	1		
	心理・教育フィールド研修d	1		
	児童英語教育Ⅰ	2		
	児童英語教育Ⅱ	2		
	子どものための英語教育Ⅰ	2		
	子どものための英語教育Ⅱ	2		
	英語教材作成演習	2		
専門演習・卒業研究	心理学演習Ⅰ	4	4	
	心理学演習Ⅱ	4	4	
	卒業研究	8	8	
			計35	
臨床心理専攻専門教育科目				
基礎科目	心理学基礎演習Ⅰ	2	2	
	心理学基礎演習Ⅱ	2	2	
	心理学概論（心と行動）	2	2	
	心理学概論（心と社会）	2	2	
	心理統計法Ⅰ	2	2	
	心理統計法Ⅱ	2	2	
	心理テスト入門	2	2	
	心理テスト実習	1	1	
	心理学研究法	2	2	
	初級実験実習Ⅰ	1	*	
	初級実験実習Ⅱ	1	*	
	現代社会調査入門	2		
	質問紙調査法	2	2	*から2単位選択必修
	推測統計学Ⅰ	2	2	
	推測統計学Ⅱ	2	2	
	中級実験実習	1	*	
	心理学情報処理	2		
展開科目	臨床心理学概論	2	2	
	臨床心理アセスメント	2		
	カウンセリング概論	2	2	
	パーソナリティ心理学	2		
	無意識の心理学	2		
	児童心理学	2		
	家族心理学	2		
	臨床相談実習	2	2	
	臨床相談演習	2		
	心理療法概論	2		
	学校臨床心理学	2		
	精神医学Ⅰ	2		
	精神医学Ⅱ	2		
	神経心理学	2		
	心理関係法規論	2		
	発達検査論	2		

区　分	授業科目	単位	必修単位	備考
関連科目	老年期の心理学	2		
	犯罪心理学	2		
	学校教育概論	2		
	乳幼児心理学	2		
	知覚心理学	2		
	学習の心理学	2		
	学校教育の心理学	2		障害のある幼児、児童及び生徒の発達及び学習の過程を含む。
	生活環境の心理学	2		
	現代青年の心理学	2		
	対人関係の心理学	2		
	現代社会の心理学	2		
	産業心理学	2		
	障害児心理学	2		
	保育概論	2		
	認知心理学	2		
	生徒指導・進路指導	2		
	教育相談論	2		カウンセリングに関する基礎知識を含む。
	環境教育	2		
	情報教育	2		
	情報科学概論	2		
	心理学英文講読（基礎）	2		
	心理学英文講読（応用）	2		
	心理・教育フィールド研修a	1		
	心理・教育フィールド研修b	1		
	心理・教育フィールド研修c	1		
	心理・教育フィールド研修d	1		
専門演習・卒業研究	心理学演習Ⅰ	4	4	
	心理学演習Ⅱ	4	4	
	卒業研究	8	8	
			計47	
大学コンソーシアム京都提供専門科目	子供のネット安全教育の理論と実践	2		
	若者と自殺―いのちのリレー講座―	2		
学際教育科目				
他学部・他学科専門教育科目				開設学部学科が受講を認める科目に限る。
他大学等単位互換科目				８単位を限度とする。
	大学コンソーシアム京都の単位互換科目			大学コンソーシアム京都の単位互換履修生募集ガイドに掲載された科目
	協定大学単位互換科目			他大学との協定（大学コンソーシアム京都に係るものを除く。）による科目

【心理学部履修条件】

1．共通教育科目（24単位以上）の履修条件は、次のとおりとする。

ア．基盤科目　　必修６単位　選択必修２単位以上

イ．基礎科目　　必修５単位

ウ．基礎科目のうち必修の外国語科目以外の外国語科目（ただし、現代心理専攻については英語の科目に限る。）
　　選択必修４単位

エ．ア以外の基盤科目、イ及びウ以外の基礎科目、教養科目（うち特定科目は６単位を上限とする。）
　　選択必修７単位以上

オ．外国語科目のうち母語及び母国語にあたる科目を履修することはできない。

2．外国人留学生は、１のイ及びウの外国語科目に係る規定にかかわらず、外国語科目として日本語講読Ⅰ・Ⅱ、日本語表現Ⅰ・Ⅱ、日本語特講Ⅰ・Ⅱの６単位を必修とし、必修の外国語科目以外の外国語科目２単位を選択必修とする。

3．現代心理専攻の専門教育科目（80単位以上）の履修条件は、次のとおりとする。

ア．基礎科目　必修22単位
イ．展開科目　選択必修20単位以上
ウ．基礎科目、展開科目及び関連科目
選択必修22単位以上
エ．専門演習・卒業研究　必修16単位

4．学校心理専攻の専門教育科目（86単位以上）の履修条件は、次のとおりとする。

ア．基礎科目　必修８単位　選択必修５単位以上
イ．展開科目　必修６単位　選択必修18単位以上
ウ．基礎科目、展開科目及び関連科目
選択必修33単位以上
エ．専門演習・卒業研究　必修16単位

5．臨床心理専攻の専門教育科目（86単位以上）の履修条件は、次のとおりとする。

ア．基礎科目　必修23単位　選択必修２単位
イ．展開科目　必修６単位　選択必修22単位以上
ウ．基礎科目、展開科目及び関連科目
選択必修17単位以上
エ．専門演習・卒業研究　必修16単位

6．学際教育科目の履修条件は、現代心理専攻は０～20単位、学校心理専攻及び臨床心理専攻は０～14単位とする。ただし、他大学等単位互換科目は８単位を上限とする。

以上、124単位をもって卒業要件とする。

区　分	授業科目	単位	必修単位	備考
〔資格関係〕				
教職に関する科目				
（中等）				
教職に関する科目	教師論	2	2	
	教育学	2	2	
	発達と学習の教育心理	2	2	障害のある幼児、児童及び生徒の発達及び学習の過程を含む。
	教育社会学	2	2	1科目選択必修
	教育経営論	2		
	教育課程論	2	2	
	英語科教育法Ⅰ	2	8	取得する免許の教科について必修
	英語科教育法Ⅱ	2		
	英語科教育法Ⅲ	2		
	英語科教育法Ⅳ	2		
	国語科教育法Ⅰ	2		
	国語科教育法Ⅱ	2		
	国語科教育法Ⅲ	2		
	国語科教育法Ⅳ	2		
	家庭科教育法Ⅰ（生活の自立と衣食住）	2		
	家庭科教育法Ⅱ（家族・家庭生活と福祉）	2		
	家庭科教育法Ⅲ（指導法と教材作成）	2		
	家庭科教育法Ⅳ（模擬授業）	2		
	道徳の指導法	2	2	中学校免許取得者必修 高校免許取得者は教科又は教職に関する科目に充当
	特別活動の指導法	2	2	
	教育の方法及び技術	2	2	情報機器及び教材の活用を含む。
	生徒指導・進路指導の理論及び方法	2	2	
	教育相談の理論及び方法	2	2	カウンセリングに関する基礎知識を含む。
	教育実習事前事後指導	1	1	
	教育実習Ⅰ	2	2	
	教育実習Ⅱ	2	2	中学校免許取得者必修
	教職実践演習（中・高）	2	2	
			中学校免許 計35 高等学校免許 計31	
教科又は教職に関する科目	介護等体験	1		
	ボランティア実践	1		
（初等）				
教職に関する科目	教師論	2	2	
	学校教育概論	2	2	
	教育学	2		
	学校教育の心理学	2	2	障害のある幼児、児童及び生徒の発達及び学習の過程を含む。
	児童心理学	2		

区　分	授業科目	単位	必修単位	備考
	障害児心理学	2		
	認知心理学	2		
	教育社会学	2	2	1科目選択必修
	教育経営論	2		
	教育課程論	2	2	
	国語科指導法	2	2	書写を含む。小学校のみ
	社会科指導法	2	2	小学校のみ
	算数科指導法	2	2	〃
	理科指導法	2	2	〃
	生活科指導法	2	2	〃
	音楽科指導法	2	2	〃
	図工科指導法	2	2	〃
	家庭科指導法	2	2	〃
	体育科指導法	2	2	〃
	道徳の指導法	2	2	〃
	特別活動の指導法	2	2	〃
	教育方法学	2	2	情報機器及び教材の活用を含む。
	教育評価	2	2	
	保育概論	2	2	幼稚園のみ
	保育内容指導法（健康）	2	2	〃
	保育内容指導法（人間関係）	2	2	〃
	保育内容指導法（環境）	2	2	〃
	保育内容指導法（言葉）	2	2	〃
	保育内容指導法（表現）	2	2	〃
	生徒指導・進路指導	2	2	小学校のみ
	教育相談論	2	2	カウンセリングに関する基礎知識を含む。
	乳幼児心理学	2	2	幼稚園のみ
	教育実習事前事後指導	1	1	
	小学校教育実習Ⅰ	2	4	① ①又は②いずれか４単位選択必修
	小学校教育実習Ⅱ	2		
	幼稚園教育実習Ⅰ	2		②
	幼稚園教育実習Ⅱ	2		
	教職実践演習（幼・小）	2	2	
			小学校免許 計47	
			幼稚園免許 計37	
教科に関する科目	国語科教育	2		小学校は4科目8単位（国語科教育を含む場合は書写を含め5科目9単位）選択必修 幼稚園は書写、社会科教育、理科教育及び家庭科教育を除いた中から3科目6単位選択必修
	読書指導と読解力	2		
	書写	1		
	社会科教育	2		
	算数科教育	2		
	理科教育	2		
	生活科教育	2		
	音楽科教育	2		

区　分	授業科目	単位	必修単位	備考
	図工科教育	2		
	家庭科教育	2		
	体育科教育	2		
			小学校免許 計 8又は9 幼稚園免許 計 6	
教科又は教職に関する科目	環境教育	2		最低修得単位数を超えて履修した教科に関する科目又は教職に関する科目を含めて10単位以上修得
	情報教育	2		
	食と健康の教育	2		
	児童英語教育Ⅰ	2		
	児童英語教育Ⅱ	2		
	子どものための英語教育Ⅰ	2		
	子どものための英語教育Ⅱ	2		
	英語教材作成演習	2		
	介護等体験	2		
	ボランティア実践	1		
司書教諭に関する科目	学校経営と学校図書館	2	2	
	学校図書館メディアの構成	2	2	
	学習指導と学校図書館	2	2	
	読書と豊かな人間性	2	2	
	情報メディアの活用	2	2	
			計10	
司書に関する科目	生涯学習概論	2	2	
	図書館概論	2	2	
	図書館制度・経営論	2	2	
	図書館情報技術論	2	2	
	図書館サービス概論	2	2	
	情報サービス論	2	2	
	児童サービス論	2	2	
	情報サービス演習Ⅰ	2	2	
	情報サービス演習Ⅱ	2	2	
	図書館情報資源概論	2	2	
	情報資源組織論	2	2	
	情報資源組織演習Ⅰ	2	2	
	情報資源組織演習Ⅱ	2	2	
			計26	
	図書館基礎特論	1		
	図書館サービス特論	2		いずれか１科目のみ算入 学校経営と学校図書館は教職課程履修者に限り履修できる。
	学校経営と学校図書館	2		
	図書館情報資源特論	1		
	図書・図書館史	2		２科目以上選択必修
	図書館総合演習	1		

区　分	授業科目	単位	必修単位	備考
	図書館実習	1		
博物館学芸員に関する科目	生涯学習概論	2	2	
	博物館概論	2	2	
	博物館経営論	2	2	
	博物館資料論	2	2	
	博物館資料保存論	2	2	
	博物館展示論	2	2	
	博物館教育論	2	2	
	博物館情報・メディア論	2	2	
	博物館実習Ⅰ	1	1	
	博物館実習Ⅱ	2	2	
			計19	
プレゼンテーション実務士に関する科目	応用プレゼンテーション演習	2		
日本語教員養成課程に関する科目	日本語教授法	2		
	日本語教育実習Ⅰ	2		
	日本語教育実習Ⅱ	2	いずれか選択必修	
	日本語教育実習Ⅲ	2		
	日本語教育実習Ⅳ	4		

資格取得のための履修方法は別に定める。

別表２

１　入学検定料（第35条関係）

入学検定料
35,000円（大学入試センター試験利用の場合は10,000円）

⑴　公募制推薦入学試験において、複数出願する場合には、２出願目以降１出願につき入学検定料を15,000円とする。

⑵　一般入学試験及び公募制推薦入学試験において、同時に高得点重視型に出願する場合には、別途5,000円を納めなければならない。

⑶　入学手続完了者のうち、一般入学試験及び大学入試センター試験利用入学試験において特待生制度（スカラシップ選考Ⅱ）に出願する場合は、入学検定料を5,000円とする。

⑷　次の各号に該当する場合は、入学検定料を免除する。

①「東日本大震災被災者特別支援制度」対象者

②「台風等自然災害被災者特別支援制度」対象者

２　入学金及び授業料その他の納入金（第35条関係）

人間文化学部英語英文学科

費　目	入　学　金	授　業　料	教育充実費	施設設備費	卒　業　費	合　　計
第１年次	280,000円	750,000円	150,000円	230,000円		1,410,000円
第２、３年次		750,000円	150,000円	230,000円		1,130,000円
第４年次		750,000円	150,000円	230,000円	33,000円	1,163,000円

人間文化学部人間文化学科

費　目	入　学　金	授　業　料	教育充実費	施設設備費	卒　業　費	合　　計
第１年次	280,000円	750,000円	150,000円	230,000円		1,410,000円
第２、３年次		750,000円	150,000円	230,000円		1,130,000円
第４年次		750,000円	150,000円	230,000円	33,000円	1,163,000円

生活福祉文化学部生活福祉文化学科

費　目	入　学　金	授　業　料	教育充実費	施設設備費	卒　業　費	合　　計
第１年次	280,000円	750,000円	150,000円	230,000円		1,410,000円
第２、３年次		750,000円	150,000円	230,000円		1,130,000円
第４年次		750,000円	150,000円	230,000円	33,000円	1,163,000円

心理学部心理学科（現代心理専攻・学校心理専攻・臨床心理専攻）

費　目	入　学　金	授　業　料	教育充実費	施設設備費	卒　業　費	合　　計
第１年次	280,000円	750,000円	150,000円	230,000円		1,410,000円
第２、３年次		750,000円	150,000円	230,000円		1,130,000円
第４年次		750,000円	150,000円	230,000円	33,000円	1,163,000円

⑴　在学の期間が修業年限を超える者のうち、卒業要件を満たしていない者の授業料は、次のとおりとする。

①卒業要件に対する不足単位（「卒業研究」及び通年科目は、単位数の２分の１とする。以下⑴において同じ。）が４単位以下の場合

１期につき	187,500円

注：１期とは、前期または後期のいずれかの期をいう。（以下同じ）

②卒業要件に対する不足単位が４単位を超える場合

１期につき	187,500円＋（20,000円×（不足単位数－４））（ただし、最高375,000円とする。）

⑵　在学の期間が修業年限を超える者のうち、卒業延期を許可された者の授業料は、次のとおりとする。

１期につき	100,000円＋（20,000円×当該学期に履修登録した単位数（通年科目は単位数に２分の１を乗じて得た数））（ただし、最高375,000円とする。）

⑶　上記⑴、⑵に適用となる者には、教育充実費、施設設備費、卒業費を徴収しない。

３　在籍料（第39条関係）

１期につき	60,000円

京都ノートルダム女子大学 授業科目の単位の計算等に関する規程

第１条　京都ノートルダム女子大学学則第18条第１項第１号から第３号までの別に定める時間及び第13条第３項の別に定める授業科目並びに別表１に定める授業科目の配当学年及び前提科目等について、別表のとおり定める。

第２条　別表中、１単位あたり授業時間及び授業を行う時間並びに期間について、学長が教育上有益と認めるときは、前条の規定にかかわらず、これを変更して授業を行うことができる。ただし、学修時間を変更することはできない。

第３条　この規程の改廃は管理運営会議の議を経て行う。

附　則（平成20年12月24日制定）

この規程は平成21年４月１日から施行する。

附　則（平成21年12月24日改正）

この改正は平成22年４月１日から施行する。ただし、平成22年度入学生から適用し、平成21年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成22年12月22日改正）

１　この改正は平成23年４月１日から施行する。ただし、平成23年度入学生から適用し、平成22年度以前の入学生については、なお従前の例による。

２　音楽科指導法から保育内容指導法（人間関係）まで及び教育実習事前事後指導から幼稚園教育実習Ⅱまでに係る改正については、前項の規定にかかわらず、平成22年度入学生から適用し、平成21年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成23年９月28日改正）

この改正は平成24年４月１日から施行する。ただし、精神保健福祉援助演習Ⅲから精神保健福祉援助実習Ⅲまでの改正については平成24年度入学生から適用し、平成23年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成23年12月27日改正）

この改正は平成24年４月１日から施行する。ただし、平成23年度以前の入学生が学則の定めるところにより改正前の授業科目を履修するときは、当該授業科目については改正前の規定を適用する。

附　則（平成24年８月29日改正）

この改正は平成25年４月１日から施行する。ただし、平成24年度以前の入学生が学則の定めるところにより改正前の授業科目を履修するときは、当該授業科目については改正前の規定を適用する。

附　則（平成24年12月26日改正）

１　この改正は平成25年４月１日から施行する。ただし、平成24年度以前の入学生が学則の定めるところにより改正前の授業科目を履修するときは、当該授業科目については改正前の規定を適用する。

２　空間意匠論及び教育方法学に係る改正については、前項の規定にかかわらず、平成25年度入学生から適用し、平成24年度以前の入学生については、なお従前の例による。

３　平成24年度以前の入学生については、臨床心理アセスメントの前提科目を「心理テスト実習又は心理検査法実習」と読替える。

附　則（平成26年１月28日改正）

１　この改正は平成26年４月１日から施行する。

２　この改正は平成26年度入学生から適用し、平成25年度以前の入学生については、なお従前の例による。ただし、平成25年度以前の入学生が学則の定めるところにより改正後の授業科目を履修するときは、この限りでない。

３　保育実習指導Ⅱから保育総合演習までに係る改正については、前項の規定にかかわらず、平成24年度入学生から適用する。

附　則（平成27年２月10日改正）

１　この改正は平成27年４月１日から施行する。ただし、平成26年度以前の入学生が学則の定めるところにより改正前の授業科目を履修するときは、当該授業科目については改正前の規定を適用する。

２　心理学部専門教育科目に係る改正については、前項の規定にかかわらず、平成27年度入学生から適用し、平成26年度以前の入学生については、なお従前の例による。ただし、臨床相談演習に係る改正については平成25年度入学生から適用し、平成24年度以前の入学生については、なお従前の例による。

３　日本語教授法及び日本語教育実習ⅠからⅣまでに係る改正については、第１項の規定にかかわらず、平成26年度入学生から適用し、平成25年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成28年１月20日改正）

１　この改正は平成28年４月１日から施行する。ただし、平成27年度（情報資源組織演習に係る改正にあっては平成28年度）以前の入学者が学則の定めるところにより改正前の授業科目を履修するときは、当該授業科目については改正前の規程を適用する。

２　日本語教育実習Ⅱ及びⅢに係る改正については、第１項の規定にかかわらず、平成26年度入学生から適用し、平成25年度以前の入学者については、なお従前の例による。

別表

授業科目	配当学年	単位	学修時間	期間	1単位あたり授業時間					授業を行う時間						前提科目	備考
					講義	演習	実験	実習	実技	講義	演習	実験	実習	実技	計		
（共通教育科目）																	
ノートルダム学Ⅰ	1	1	45	半年	15	15				10	5				15		隔週
ノートルダム学Ⅱ	1	1	45	半年	15	15				10	5				15		隔週
ノートルダム学Ⅲ	4	1	45	半年	15	15				10	5				15		
女性とライフキャリア	12	2	90	半年	15					30					30		
ホスピタリティ入門	1234	2	90	半年	15					30					30		
ホスピタリティ京都	1234	2	90	半年	15					30					30		
キャリア形成	23	2	90	半年	15					30					30		
女性の子育てとライフキャリア	1234	1	45	半年	15					15					15		全7.5コマ
キャリア形成ゼミ	23	2	90	集中		15					30				30		
児童館実践演習	234	2	90	集中		15					30				30		
インターンシップ	234	2	90	集中				30					60		60		
インターンシップ認定	234	2	—												—		学則第17条の2適用
キリスト教入門	1	2	90	半年	15					30					30		
宗教音楽Ⅰ	1	0.5	22.5	半年	30	30				7.5	7.5				15		隔週
宗教音楽Ⅱ	1	0.5	22.5	半年	30	30				7.5	7.5				15		隔週
キリスト教思想	234	2	90	半年	15					30					30		
日本文化と宗教	234	2	90	半年	15					30					30		
西洋思想	234	2	90	半年	15					30					30		
死の哲学	234	2	90	半年	15					30					30		
キリスト教的死生観	234	2	90	半年	15					30					30		
聖書と文化	234	2	90	半年	15					30					30		
キリスト教音楽	234	2	90	半年		15					30				30		
文章表現法	1234	2	90	半年	15					30					30		
情報演習Ⅰ	1	1	45	半年		30					30				30		
情報演習Ⅱ	1234	1	45	半年		30					30				30		
情報処理	1234	2	90	半年	15	15				10	20				30		
健康スポーツ演習	1	2	90	半年		15					30				30		
健康スポーツ実習	12	1	45	半年					30					30	30		
体育講義	1234	1	45	半年	15					15					15		全7.5コマ
資格英語Ⅰ	1234	2	—												—		学則第17条の2適用
資格英語Ⅱ	1234	2	—												—		学則第17条の2適用
認定日本語	1234	2	—												—		学則第17条の2適用
英語基礎Ⅰ	1	1	45	半年		30					30				30		
英語総合Ⅰ	1	1	45	半年		30					30				30		
英語基礎Ⅱ	1	1	45	半年		30					30				30		
英語総合Ⅱ	1	1	45	半年		30					30				30		
英語応用a	1234	1	45	半年		30					30				30		
英語応用b	1234	1	45	半年		30					30				30		
英語応用c	1234	1	45	半年		30					30				30		
英語応用d	1234	1	45	半年		30					30				30		
英語応用e	1234	1	45	半年		30					30				30		
英語応用f	1234	1	45	半年		30					30				30		
英語応用g	1234	1	45	半年		30					30				30		
英語応用h	1234	1	45	半年		30					30				30		
英語応用i	1234	1	45	半年		30					30				30		
英語応用j	1234	1	45	半年		30					30				30		
英会話（初級）	3	1	45	半年		30					30				30		
英会話（中級）	3	1	45	半年		30					30				30		
ドイツ語Ⅰ	1234	1	45	半年		30					30				30		
ドイツ語Ⅱ	1234	1	45	半年		30					30				30		

授業科目	配当学年	単位	学修時間	期間	1単位あたり授業時間					授業を行う時間						前提科目	備考
					講義	演習	実験	実習	実技	講義	演習	実験	実習	実技	計		
フランス語Ⅰ	1234	1	45	半年		30					30				30		
フランス語Ⅱ	1234	1	45	半年		30					30				30		
スペイン語Ⅰ	1234	1	45	半年		30					30				30		
スペイン語Ⅱ	1234	1	45	半年		30					30				30		
朝鮮語Ⅰ	1234	1	45	半年		30					30				30		
朝鮮語Ⅱ	1234	1	45	半年		30					30				30		
朝鮮語Ⅲ	1234	1	45	半年		30					30				30		
朝鮮語Ⅳ	1234	1	45	半年		30					30				30		
朝鮮語Ⅴ	1234	1	45	半年		30					30				30		
朝鮮語Ⅵ	1234	1	45	半年		30					30				30		
中国語Ⅰ	1234	1	45	半年		30					30				30		
中国語Ⅱ	1234	1	45	半年		30					30				30		
中国語Ⅲ	1234	1	45	半年		30					30				30		
中国語Ⅳ	1234	1	45	半年		30					30				30		
中国語Ⅴ	1234	1	45	半年		30					30				30		
中国語Ⅵ	1234	1	45	半年		30					30				30		
アラビア語Ⅰ	1234	1	45	半年		30					30				30		
アラビア語Ⅱ	1234	1	45	半年		30					30				30		
アラビア語Ⅲ	1234	1	45	半年		30					30				30		
アラビア語Ⅳ	1234	1	45	半年		30					30				30		
日本語講読Ⅰ	1	1	45	半年		30					30				30		
日本語講読Ⅱ	1	1	45	半年		30					30				30		
日本語表現Ⅰ	1	1	45	半年		30					30				30		
日本語表現Ⅱ	1	1	45	半年		30					30				30		
日本語特講Ⅰ	2	1	45	半年		30					30				30		
日本語特講Ⅱ	2	1	45	半年		30					30				30		
資格日本語	123	2	—												—		学則第17条の2適用
人間学	1234	2	90	半年	15					30					30		
日本古代中世史	1234	2	90	半年	15					30					30		
日本近世近代史	1234	2	90	半年	15					30					30		
西洋史	1234	2	90	半年	15					30					30		
東洋史	1234	2	90	半年	15					30					30		
日本文学	1234	2	90	半年	15					30					30		
外国文学	1234	2	90	半年	15					30					30		
心理学概論	1234	2	90	半年	15					30					30		
文化人類学	1234	2	90	半年	15					30					30		
法学概論	1234	2	90	半年	15					30					30		
日本国憲法	1234	2	90	半年	15					30					30		
経済学概論	1234	2	90	半年	15					30					30		
社会学概論	1234	2	90	半年	15					30					30		
女性学概論	1234	2	90	半年	15					30					30		
女性の権利	1234	2	90	半年	15					30					30		
ボランティア概論	1234	2	90	半年	15					30					30		
実践の子ども学	1234	2	90	集中		15					30				30		
子どもと子育てのための生活環境学	1234	1	45	半年	15					15					15		全7.5コマ
地球と宇宙の科学	1234	2	90	半年	15					30					30		
環境学概論	1234	2	90	半年	15					30					30		
医学概論Ⅰ	123	2	90	半年	15					30					30		
医学概論Ⅱ	234	2	90	半年	15					30					30	医学概論Ⅰ	
病児の発達と支援	123	2	90	集中	15					30					30		
生命倫理	1234	2	90	半年	15					30					30		
身近な自然科学入門	1234	2	90	半年	15					30					30		
暮らしの統計学	1234	2	90	半年	15					30					30		
特定目的海外研修	1234	2	90	集中		30					60				60		

授業科目	配当学年	単位	学修時間	期間	1単位あたり授業時間					授業を行う時間						前提科目	備考
					講義	演習	実験	実習	実技	講義	演習	実験	実習	実技	計		
ボランティア実践	234	1	45	集中				30					30		30		
（人間文化学部英語英文学科専門教育科目）																	
Reading Ⅰ	1	2	90	半年	15					30					30		
Reading Ⅱ	1	2	90	半年	15					30					30		
Writing Ⅰ	1	2	90	半年	15					30					30		
Writing Ⅱ	1	2	90	半年	15					30					30		
Advanced Reading Ⅰ	2	2	90	半年	15					30					30		
Advanced Reading Ⅱ	2	2	90	半年	15					30					30		
Advanced Writing Ⅰ	2	2	90	半年	15					30					30		
Advanced Writing Ⅱ	2	2	90	半年	15					30					30		
Listening Ⅰ	1	1	45	半年		30					30				30		
Listening Ⅱ	1	1	45	半年		30					30				30		
Speaking Ⅰ	1	1	45	半年		30					30				30		
Speaking Ⅱ	1	1	45	半年		30					30				30		
Advanced Listening Ⅰ	2	1	45	半年		30					30				30		
Advanced Listening Ⅱ	2	1	45	半年		30					30				30		
Advanced Speaking Ⅰ	2	1	45	半年		30					30				30		
Advanced Speaking Ⅱ	2	1	45	半年		30					30				30		
Academic Reading Ⅰ	3	2	90	半年	15					30					30		
Academic Reading Ⅱ	3	2	90	半年	15					30					30		
Academic Writing Ⅰ	3	2	90	半年	15					30					30		
Academic Writing Ⅱ	3	2	90	半年	15					30					30		
Communication Skills Ⅰ	3	1	45	半年		30					30				30		
Communication Skills Ⅱ	3	1	45	半年		30					30				30		
Communication Skills Ⅲ	4	1	45	半年		30					30				30		
Communication Skills Ⅳ	4	1	45	半年		30					30				30		
英文法Ⅰ	1	2	90	半年	15					30					30		
英文法Ⅱ	1	2	90	半年	15					30					30		
英文法Ⅲ	2	2	90	半年	15					30					30		
英文法Ⅳ	2	2	90	半年	15					30					30		
イングリッシュ・チャレンジⅠ	1234	2	—												—		学則第17条の２適用
イングリッシュ・チャレンジⅡ	1234	2	—												—		学則第17条の２適用
英語キャリア戦略	1	2	90	半年	15					30					30		
TOEIC Ⅰ	1	2	90	半年	15					30					30		
TOEIC Ⅱ	1	2	90	半年	15					30					30		
TOEIC Ⅲ	2	2	90	半年	15					30					30		
TOEIC Ⅳ	2	2	90	半年	15					30					30		
TOEFL Ⅰ	1	2	90	半年	15					30					30		
TOEFL Ⅱ	1	2	90	半年	15					30					30		
Writing Lab Ⅰ	1	0.5	22.5	半年				30					15		15		全7.5コマメディア利用（学則第13条第2項適用）
Writing Lab Ⅱ	1	0.5	22.5	半年				30					15		15		全7.5コマメディア利用（学則第13条第2項適用）
Reading Lab Ⅰ	1	0.5	22.5	半年				30					15		15		全7.5コマメディア利用（学則第13条第2項適用）
Reading Lab Ⅱ	1	0.5	22.5	半年				30					15		15		全7.5コマメディア利用（学則第13条第2項適用）

授業科目	配当学年	単位	学修時間	期間	1単位あたり授業時間					授業を行う時間						前提科目	備考
					講義	演習	実験	実習	実技	講義	演習	実験	実習	実技	計		
Writing Lab Ⅲ	2	0.5	22.5	半年				30					15		15		全7.5コマ メディア利用（学則第13条第2項適用）
Writing Lab Ⅳ	2	0.5	22.5	半年				30					15		15		全7.5コマ メディア利用（学則第13条第2項適用）
Reading Lab Ⅲ	2	0.5	22.5	半年				30					15		15		全7.5コマ メディア利用（学則第13条第2項適用）
Reading Lab Ⅳ	2	0.5	22.5	半年				30					15		15		全7.5コマ メディア利用（学則第13条第2項適用）
スピーチⅠ	234	2	90	半年	15					30					30		
スピーチⅡ	234	2	90	半年	15					30					30		
同時通訳入門	1	2	90	半年	15					30					30		
同時通訳法Ⅰ	234	2	90	半年	15					30					30		
同時通訳法Ⅱ	234	2	90	半年	15					30					30		
ビジネス英語	234	2	90	半年	15					30					30		
海外留学Ⅰa	2	1	45			30					30				30		
海外留学Ⅰb	23	1	45			30					30				30		
海外留学Ⅱa	2	2	90			30					60				60		
海外留学Ⅱb	23	2	90			30					60				60		
海外留学Ⅲa	2	4	180			30					120				120		
海外留学Ⅲb	23	4	180			30					120				120		
海外留学Ⅲc	2	4	180			30					120				120		
海外留学Ⅲd	23	4	180			30					120				120		
海外留学Ⅲe	2	4	180			30					120				120		
海外留学Ⅲf	23	4	180			30					120				120		
英語英文学基礎演習Ⅰ	1	2	90			15					30				30		
英語英文学基礎演習Ⅱ	1	2	90			15					30				30		
英米文学概論	2	2	90	半年	15					30					30		
言語学概論	2	2	90	半年	15					30					30		人間文化学科専門教育科目を兼ねる。
コミュニケーション学概論	2	2	90	半年	15					30					30		
専門講読Ⅰa	1	2	90	半年	15					30					30		
専門講読Ⅰb	1	2	90	半年	15					30					30		
専門講読Ⅰc	1	2	90	半年	15					30					30		
専門講読Ⅰd	1	2	90	半年	15					30					30		
専門講読Ⅱa	1	2	90	半年	15					30					30		
専門講読Ⅱb	1	2	90	半年	15					30					30		
専門講読Ⅱc	1	2	90	半年	15					30					30		
専門講読Ⅱd	1	2	90	半年	15					30					30		
専門講読Ⅲ	2	2	90	半年	15					30					30		
専門講読Ⅳ	2	2	90	半年	15					30					30		
Global English Lecture Ⅰa	234	2	90	半年	15					30					30		
Global English Lecture Ⅱa	234	2	90	半年	15					30					30		
Global English Lecture Ⅲa	234	2	90	半年	15					30					30		
Global English Workshop Ⅰa	234	3	135	半年	15	15				30	15				45		週1.5コマ
Global English Workshop Ⅱa	234	3	135	半年	15	15				30	15				45		週1.5コマ
Global English Lecture Ⅰb	234	2	90	半年	15					30					30		
Global English Lecture Ⅱb	234	2	90	半年	15					30					30		
Global English Lecture Ⅲb	234	2	90	半年	15					30					30		
Global English Workshop Ⅰb	234	3	135	半年	15	15				30	15				45		週1.5コマ
Global English Workshop Ⅱb	234	3	135	半年	15	15				30	15				45		週1.5コマ

授業科目	配当学年	単位	学修時間	期間	1単位あたり授業時間					授業を行う時間						前提科目	備考
					講義	演習	実験	実習	実技	講義	演習	実験	実習	実技	計		
Global English Lecture Ⅰc	234	2	90	半年	15					30					30		
Global English Lecture Ⅱc	234	2	90	半年	15					30					30		
Global English Lecture Ⅲc	234	2	90	半年	15					30					30		
Global English Workshop Ⅰc	234	3	135	半年	15	15				30	15				45		週1.5コマ
Global English Workshop Ⅱc	234	3	135	半年	15	15				30	15				45		週1.5コマ
Global English Colloquium Ⅰ	3	2	90	半年		15					30				30		
Global English Colloquium Ⅱ	3	2	90	半年		15					30				30		
Global English Colloquium Ⅲ	4	2	90	半年		15					30				30		
Global English Colloquium Ⅳ	4	2	90	半年		15					30				30		
海外留学事前指導	2	1	45	集中		15					15				15		全7.5コマ
海外留学事後指導	3	1	45	集中		15					15				15		全7.5コマ
英文学の歴史	234	2	90	半年	15					30					30		
米文学の歴史	234	2	90	半年	15					30					30		
映画論	234	2	90	半年	15					30					30		
児童文学	234	2	90	半年	15					30					30		
文学と女性	234	2	90	半年	15					30					30		
英語圏文化	234	2	90	半年	15					30					30		
アメリカの社会と文化	234	2	90	半年	15					30					30		
英語の歴史	234	2	90	半年	15					30					30		
ことばのしくみ																	
ことばと社会	234	2	90	半年	15					30					30		
ことばと認知	234	2	90	半年	15					30					30		
英語のサウンド研究	234	2	90	半年	15					30					30		
対人コミュニケーション	234	2	90	半年	15					30					30		
異文化間コミュニケーション	234	2	90	半年	15					30					30		
言語、文化、コミュニケーション	234	2	90	半年	15					30					30		
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾈｯﾄﾜｰｸｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	234	2	90	半年	15					30					30		
マルチメディア研究	234	2	90	半年	15					30					30		
英語科教育法Ⅰ	2	2	90	半年		15					30				30		
英語科教育法Ⅱ	2	2	90	半年		15					30				30		
英語科教育法Ⅲ	3	2	90	半年		15					30				30		
英語科教育法Ⅳ	3	2	90	半年		15					30				30		
児童英語教育Ⅰ	1234	2	90	半年	15					30					30		心理学部専門教育科目を兼ねる。
児童英語教育Ⅱ	1234	2	90	半年	15					30					30		心理学部専門教育科目を兼ねる。
子どものための英語教育Ⅰ	234	2	90	集中	15					30					30		心理学部専門教育科目を兼ねる。
子どものための英語教育Ⅱ	234	2	90	集中	15					30					30		心理学部専門教育科目を兼ねる。
応用言語学	234	2	90	半年	15					30					30		
英語教材作成演習	234	2	90	半年		15					30				30		
外国語としての日本語	234	2	90	半年	15					30					30		
子ども英語のための音声指導	234	2	90	半年	15					30					30		
子ども英語授業演習	234	2	90	半年		15					30				30		
スクールインターンシップ	34	2	90	半年				30					60		60		
ホスピタリティ論Ⅰ	1	2	90	半年	15					30					30		
ホスピタリティ論Ⅱ	1	2	90	半年	15					30					30	ホスピタリティ論Ⅰ又はホスピタリティ入門	
エアライン・ビジネス論	2	2	90	半年	15					30					30		
エアライン・サービス論	1	2	90	半年	15					30					30		
旅行観光業研究	234	2	90	半年	15					30					30		

授業科目	配当学年	単位	学修時間	期間	1単位あたり授業時間					授業を行う時間						前提科目	備考
					講義	演習	実験	実習	実技	講義	演習	実験	実習	実技	計		
ホテルビジネス研究	234	2	90	半年	15					30					30		
ホスピタリティ・スキル	234	2	90	半年	15					30					30		
フィールド研究	34	2	90	半年	15					30					30		
接遇のための日本語	234	1	45	半年		30					30				30		
接遇のための英語	234	1	45	半年		30					30				30		
ビジネスマナー演習	34	1	45	半年		30					30				30		
キャリアデベロップメント	34	1	45	半年		30					30				30		
エアラインインターンシップ	4	2	90	集中				30					60		60		
エアライン研修	23	2	90	集中		15					30				30		
医療サポート英語Ⅰ	234	2	90	半年		15					30				30		
医療サポート英語Ⅱ	234	2	90	半年		15					30				30	医療サポート英語Ⅰ	
医療サポート語学プログラム病院研修	34	1	45	集中				30					30		30		
病院インターンシップ	34	2	90	集中				30					60		60		
プレゼンテーション概論	234	2	90	半年	15					30					30		人間文化学科専門教育科目を兼ねる。
プレゼンテーション演習	234	2	90	半年		15					30				30		人間文化学科専門教育科目を兼ねる。
オンライン版英国文化研究Ⅰ	234	2	90	半年	15					30					30		メディア利用（学則第13条第2項適用）
オンライン版英国文化研究Ⅱ	234	2	90	半年	15					30					30		メディア利用（学則第13条第2項適用）
英語英文学演習Ⅰ	3	2	90	半年		15					30				30		
英語英文学演習Ⅱ	3	2	90	半年		15					30				30		
卒業研究	4	8	—	通年											—		学則第18条第2項適用
（人間文化学部人間文化学科専門教育科目）																	
日本語コミュニケーションⅠ	1	2	90	半年	15					30					30		
日本語コミュニケーションⅡ	1	2	90	半年	15					30					30		
日本語コミュニケーションⅢ	2	2	90	半年	15					30					30		
国文学概論	12	2	90	半年	15					30					30		
国語学概論	12	2	90	半年	15					30					30		
日本古典文学講読	234	2	90	半年	15					30					30		
日本近代文学講読	234	2	90	半年	15					30					30		
日本語文法	234	2	90	半年	15					30					30		
日本語研究	234	2	90	半年	15					30					30		
言語学概論	2	2	90	半年	15					30					30		英語英文学科専門教育科目を兼ねる。（再掲）
書写研究	234	2	90	半年	15					30					30		
日本文学特講	234	2	90	半年	15					30					30		
日本伝統文化論	234	2	90	半年	15					30					30		
日本年中行事論	34	2	90	半年	15					30					30		
京都学	234	2	90	半年	15					30					30		メディア利用（学則第13条第2項適用）
京都フィールドワーク研究	234	2	90	半年	15					30					30		
日本語教育入門	234	2	90	半年	15					30					30		
日本文化論	12	2	90	半年	15					30					30		
日本語表現	234	2	90	半年		15					30				30		
プレゼンテーション概論	234	2	90	半年	15					30					30		英語英文学科専門教育科目を兼ねる。（再掲）
プレゼンテーション演習	234	2	90	半年		15					30				30		英語英文学科専門教育科目を兼ねる。（再掲）
日本語の朗読	234	2	90	半年		15					30				30		

授業科目	配当学年	単位	学修時間	期間	1単位あたり授業時間					授業を行う時間						前提科目	備考
					講義	演習	実験	実習	実技	講義	演習	実験	実習	実技	計		
スピーチの基礎	234	2	90	半年		15					30				30		
キャリアとコミュニケーション	234	2	90	半年		15					30				30		
古文書読解	234	2	90	半年		15					30				30		
現代ジャーナリズム論	1234	2	90	半年	15					30					30		心理学部専門教育科目を兼ねる。
情報システム論	234	2	90	半年	15					30					30		
インターネット社会論	234	2	90	半年	15					30					30		
情報科学応用	234	2	90	半年	15	15				10	20				30		
情報科学概論	34	2	90	半年	15					30					30		
情報科学演習Ⅰ	1234	2	90	半年		30					60				60		週２コマ
情報科学演習Ⅱ	1234	2	90	半年		30					60				60		週２コマ
情報･メディアの文化とリテラシー	234	2	90	半年	15					30					30		
子どもの読書とメディア	234	2	90	半年	15					30					30		
識字活動と子どもの権利	234	2	90	半年	15					30					30		
昔話とストーリーテリング	234	2	90	半年	15					30					30		
現代出版事情	1234	2	90	半年	15					30					30		
出版文化史	234	2	90	半年	15					30					30		
ウェブデザインⅠ	234	2	90	半年	15					30					30		
ウェブデザインⅡ	234	2	90	半年	15					30					30		
ウェブデザイン演習	34	2	90	半年		15					30				30		
ウェブプログラミング演習	234	2	90	半年		15					30				30		
マルチメディア演習	234	2	90	半年		15					30				30		
グラフィックデザインと冊子制作	234	2	90	半年		15					30				30		
色彩デザイン論	234	2	90	半年	15					30					30		
博物館情報・メディア論	1234	2	90	半年	15					30					30		
図書館情報技術論	234	2	90	半年	15					30					30		
比較文化概論	12	2	90	半年	15					30					30		
国際関係論	12	2	90	半年	15					30					30		
ヨーロッパ文化論	34	2	90	半年	15					30					30		
言語文化概論	234	2	90	半年	15					30					30		
日中近代語彙比較論	234	2	90	半年	15					30					30		
漢文学入門	234	2	90	半年	15					30					30		
漢文学特講	234	2	90	半年	15					30					30		
朝鮮文化論	234	2	90	半年	15					30					30		
アラブ文学特講	234	2	90	半年	15					30					30		
比較文学講読	234	2	90	半年	15					30					30		
多文化理解	234	2	90	半年	15					30					30		
中東文化論	1234	2	90	半年	15					30					30		
キリスト教美術概論	1234	2	90	半年	15					30					30		
西洋美術史Ⅰ	1234	2	90	半年	15					30					30		
西洋美術史Ⅱ	1234	2	90	半年	15					30					30		
西洋美術史特講	234	2	90	半年	15					30					30		
博物館概論	123	2	90	半年	15					30					30		
芸術への誘い	1234	2	90	半年	15					30					30		
音楽鑑賞法	1234	2	90	半年	15					30					30		
音楽学特講	34	2	90	半年	15					30					30		
音楽文化概論	1234	2	90	半年	15					30					30		
歌曲論	234	2	90	半年	15					30					30		
典礼音楽特講	234	2	90	半年	15					30					30		
西洋思想史（古代・中世）	234	2	90	半年	15					30					30		
西洋思想史（近世）	234	2	90	半年	15					30					30		
哲学とキリスト教	234	2	90	半年	15					30					30		
日本思想	234	2	90	半年	15					30					30		
日本美術史	1234	2	90	半年	15					30					30		

授業科目	配当学年	単位	学修時間	期間	1単位あたり授業時間					授業を行う時間						前提科目	備考
					講義	演習	実験	実習	実技	講義	演習	実験	実習	実技	計		
日本美術特講	34	2	90	半年	15					30					30		
キリスト教とラテン語Ⅰ	1234	2	90	半年		15					30				30		
キリスト教とラテン語Ⅱ	1234	2	90	半年		15					30				30		
基礎演習Ⅰ	1	2	90	半年		15					30				30		
基礎演習Ⅱ	1	2	90	半年		15					30				30		
発展演習Ⅰ	2	2	90	半年		15					30				30		
発展演習Ⅱ	2	2	90	半年		15					30				30		
専門演習Ⅰ	3	2	90	半年		15					30				30		
専門演習Ⅱ	3	2	90	半年		15					30				30		
卒業研究	4	8	—	通年											—		学則第18条第2項適用
（生活福祉文化学部生活福祉文化学科専門教育科目）																	
ライフデザイン基礎論	1	2	90	半年	15					30					30		
ソーシャルワーク基礎論	1	2	90	半年	15					30					30		
生活福祉文化基礎演習Ⅰ	1	2	90	半年		15					30				30		
生活福祉文化基礎演習Ⅱ	1	2	90	半年		15					30				30		
生活福祉文化基礎演習Ⅲ	2	1	45	半年		15					15				15		全7.5コマ
生活福祉文化基礎演習Ⅳ	2	1	45	半年		15					15				15		全7.5コマ
衣生活学―福祉の視点より―	23	2	90	半年	15					30					30		
衣生活材料学	23	2	90	半年	15					30					30		
アパレルデザイン	34	2	90	半年	15					30					30		
アパレル造形学（実習を含む）	23	2	90	半年	15			30		15			30		45		週1.5コマ
衣生活情報論	34	2	90	半年	15					30					30		
衣生活文化史	234	2	90	半年	15					30					30		
服飾文化論	234	2	90	半年	15					30					30		
食品学	234	2	90	半年	15					30					30		
食品安全性学	234	2	90	半年	15					30					30		
食品加工学（実験を含む）	234	3	135	半年	15	15	30			15	15	30			60		週２コマ
食品官能評価論	234	2	90	半年		30					60				60		週２コマ
食品流通論	234	2	90	半年	15					30					30		
栄養学概論	234	2	90	半年	15					30					30		
フードスペシャリスト論	234	2	90	半年	15					30					30		
調理学	234	2	90	半年	15					30					30		
ベーシックキュイズィーン（基礎調理実習）	234	2	90	半年				30					60		60		週２コマ
アドバンストキュイズィーン（応用調理実習）	234	2	90	半年				30					60		60	ベーシックキュイズィーン（基礎調理実習）	週２コマ
フードコーディネート論	234	2	90	半年	15					30					30		
ライフステージと食生活	234	2	90	半年	15					30					30		
福祉と食生活	234	2	90	半年	15					30					30		
住環境学（製図を含む）	23	2	90	半年	15					30					30		
住生活学	234	2	90	半年	15					30					30		
住宅論	34	2	90	半年	15					30					30		
住居史	234	2	90	半年	15					30					30		
空間意匠論	34	2	90	半年	15	15				15	15				30		
福祉住環境学	23	2	90	半年	15					30					30		
住居製図Ⅰ	2	1	45	半年		30					30				30		
住居製図Ⅱ	2	1	45	半年		30					30				30		
住計画演習Ⅰ	34	2	90	半年		22.5					45				45	住居製図Ⅰ、住居製図Ⅱ	週1.5コマ
住計画演習Ⅱ	34	2	90	半年		22.5					45				45	住居製図Ⅰ、住居製図Ⅱ、住計画演習Ⅰ	週1.5コマ
設計方法論	34	2	90	半年	15					30					30		
建築法規	23	2	90	半年	15					30					30	建築一般構造	
建築一般構造	234	2	90	半年	15					30					30		
建築構造力学	34	2	90	半年	15					30					30	建築一般構造	

授業科目	配当学年	単位	学修時間	期間	1単位あたり授業時間					授業を行う時間						前提科目	備考
					講義	演習	実験	実習	実技	講義	演習	実験	実習	実技	計		
建築施工	23	2	90	半年	15					30					30	建築一般構造	
建築材料学	34	2	90	半年	15	15				15	15				30	建築一般構造	
西洋建築史	23	2	90	半年	15					30					30		
デザイン論Ⅰ	12	2	90	半年	15					30					30		
デザイン論Ⅱ	34	2	90	半年	15					30					30		
色彩学	1234	2	90	半年	15					30					30		
家庭電気・機械及び情報処理	1234	2	90	半年	15					30					30		
京都衣生活論	234	2	90	半年	15					30					30		
京都食生活論	234	2	90	半年	15					30					30		
京都住生活論	34	2	90	半年	15					30					30		
京都生活産業実習	34	2	90	通年	30			30		30			30		60		
ビジネスの基礎	234	2	90	半年	15					30					30		心理学部専門教育科目を兼ねる。
マーケティング論	234	2	90	半年	15					30					30		心理学部専門教育科目を兼ねる。
女性起業論	234	2	90	半年	15					30					30		
家庭教育学	34	2	90	半年	15					30					30		
家庭管理	34	2	90	半年	15					30					30		
家庭経済	34	2	90	半年	15					30					30		
家族関係	234	2	90	半年	15					30					30		
消費者教育	234	2	90	半年	15					30					30		
保育学（実習及び家庭看護を含む）	34	2	90	半年	15			30		28			4		32		全16コマ
健康科学概論	1234	2	90	半年	15					30					30		
家庭科教育法Ⅰ（生活の自立と衣食住）	23	2	90	半年	15	15				15	15				30		
家庭科教育法Ⅱ（家族・家庭生活と福祉）	23	2	90	半年	15	15				15	15				30		
家庭科教育法Ⅲ（指導法と教材作成）	3	2	90	半年	15	15				15	15				30		
家庭科教育法Ⅳ（模擬授業）	3	2	90	半年	15	15				15	15				30		
社会福祉原論Ⅰ	12	2	90	半年	15					30					30		
社会福祉原論Ⅱ	12	2	90	半年	15					30					30		
老人福祉論	23	2	90	半年	15					30					30		
障害者福祉論	23	2	90	半年	15					30					30		
児童福祉論	23	2	90	半年	15					30					30		
社会福祉援助技術Ⅰ	1	2	90	半年	15					30					30		
社会福祉援助技術Ⅱ	1	2	90	半年	15					30					30		
社会福祉援助技術Ⅲ	2	2	90	半年	15					30					30		
社会福祉援助技術Ⅳ	2	2	90	半年	15					30					30		
社会福祉援助技術Ⅴ	3	2	90	半年	15					30					30		
社会福祉援助技術Ⅵ	3	2	90	半年	15					30					30		
社会福祉援助技術演習Ⅰ	2	2	90	通年		30					60				60		
社会福祉援助技術演習Ⅱ	3	2	90	通年		30					60				60		
社会福祉援助技術演習Ⅲ	4	1	45	半年		30					30				30		
社会福祉援助技術実習指導Ⅰ	2	2	90	半年				30					60		60		週２コマ
社会福祉援助技術実習指導Ⅱ	3	2	90	半年		15					30				30	社会福祉援助技術実習指導Ⅰ	
社会福祉援助技術実習指導Ⅲ	3	1	45	集中		30					30				30	社会福祉援助技術実習指導Ⅱ	
社会福祉援助技術現場実習	3	6	270	集中				30					180		180		
医学一般Ⅰ	23	2	90	半年	15					30					30		
医学一般Ⅱ	23	2	90	半年	15					30					30		
社会保障論Ⅰ	23	2	90	半年	15					30					30		
社会保障論Ⅱ	23	2	90	半年	15					30					30		
公的扶助論	34	2	90	半年	15					30					30		
地域福祉論Ⅰ	34	2	90	半年	15					30					30		
地域福祉論Ⅱ	34	2	90	半年	15					30					30	地域福祉論Ⅰ	

授業科目	配当学年	単位	学修時間	期間	1単位あたり授業時間					授業を行う時間						前提科目	備考
					講義	演習	実験	実習	実技	講義	演習	実験	実習	実技	計		
福祉行財政と福祉計画	34	2	90	半年	15					30					30		
社会福祉運営論	34	2	90	半年	15					30					30		
就労支援	34	1	45	半年	15					15					15		全7.5コマ
権利擁護と成年後見制度	34	2	90	半年	15					30					30		
更生保護制度	34	1	45	半年	15					15					15		全7.5コマ
社会福祉調査法Ⅰ	12	2	90	半年	15					30					30		
社会福祉調査法Ⅱ	34	2	90	半年	15					30					30		
介護概論	23	2	90	半年	15						30				30		
介護技術	2	2	90	半年		15					30				30		
精神医学Ⅰ	234	2	90	半年	15					30					30		心理学部専門教育科目を兼ねる。
精神医学Ⅱ	234	2	90	半年	15					30					30	精神医学Ⅰ	心理学部専門教育科目を兼ねる。
精神保健学Ⅰ	234	2	90	半年	15					30					30		
精神保健学Ⅱ	234	2	90	半年	15					30					30		
精神科リハビリテーション学Ⅰ	34	2	90	半年	15					30					30		
精神科リハビリテーション学Ⅱ	34	2	90	半年	15					30					30		
精神保健福祉論Ⅰ	234	2	90	半年	15					30					30		
精神保健福祉論Ⅱ	234	2	90	半年	15					30					30		
精神保健福祉論Ⅲ	4	2	90	半年	15					30					30		
精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	234	2	90	半年	15					30					30		
精神保健福祉援助技術各論Ⅰ	34	2	90	半年	15					30					30		
精神保健福祉援助技術各論Ⅱ	34	2	90	半年	15					30					30		
精神保健福祉援助演習（専門）Ⅰ	34	1	45	半年		30					30				30		
精神保健福祉援助演習（専門）Ⅱ	4	1	45	半年		30					30				30		
精神保健福祉援助実習指導	3	3	135	集中				30					90		90		
精神保健福祉援助実習Ⅰ	3	2	90	集中				30					60		60		
精神保健福祉援助実習Ⅱ	3	2	90	集中				30					60		60		
精神保健福祉援助実習Ⅲ	3	3	135	集中				30					90		90		
レクリエーション論	2	2	90	半年	15					30					30		
リハビリテーション論	2	2	90	半年	15					30					30		
保育原理Ⅰ	1	2	90	半年	15					30					30		
保育原理Ⅱ	2	2	90	半年	15					30					30		
養護原理	2	2	90	半年	15					30					30		
教育学	1	2	90	半年	15					30					30		
保育の心理学Ⅰ	1	2	90	半年	15					30					30		
保育の心理学Ⅱ	2	1	45	半年		30					30				30		
小児保健Ⅰ	23	2	90	半年	15					30					30		
小児保健Ⅱ	23	2	90	半年	15					30					30		
小児保健演習	23	1	45	集中		30					30				30		
小児栄養	34	2	90	半年		15					30				30		
家族援助論	234	2	90	半年	15					30					30		
保育課程論	23	2	90	半年	15					30					30		
保育内容総論	2	1	45	半年		15					15				15		全7.5コマ
保育内容Ⅰ	2	1	45	半年		15					15				15		全7.5コマ
保育内容Ⅱ	2	2	90	半年		15					30				30		
保育内容Ⅲ	2	2	90	半年		15					30				30		
乳児保育	3	2	90	半年		15					30				30		
障害児保育	34	2	90	半年		15					30				30		
養護内容	34	1	45	半年		30					30				30		
保育相談支援	34	1	45	半年		30					30				30		
基礎技能音楽Ⅰ	2	1	45	半年		30					30				30		
基礎技能音楽Ⅱ	2	1	45	半年		30					30				30		
基礎技能造形	2	1	45	半年		30					30				30		

授業科目	配当学年	単位	学修時間	期間	1単位あたり授業時間					授業を行う時間						前提科目	備考
					講義	演習	実験	実習	実技	講義	演習	実験	実習	実技	計		
基礎技能体育	2	1	45	半年		30					30				30		
基礎技能演習	2	1	45	半年		30					30				30		
子どもと言語表現	2	2	90	半年		15					30				30		
保育実習指導Ⅰ	2	2	90	半年		15					30				30		
保育実習指導Ⅱ	34	1	45	半年		30					30				30	保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ-1、保育実習Ⅰ-2	
保育実習指導Ⅲ	34	1	45	半年		30					30				30	保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ-1、保育実習Ⅰ-2	
保育実習Ⅰ-1	23	2	90	集中				40					80		80		
保育実習Ⅰ-2	23	2	90	集中				40					80		80		
保育実習Ⅱ	34	2	90	集中				40					80		80	保育原理Ⅰ、保育原理Ⅱ、保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ-1、保育実習Ⅰ-2	
保育実習Ⅲ	34	2	90	集中				40					80		80	保育原理Ⅰ、保育原理Ⅱ、保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ-1、保育実習Ⅰ-2	
保育総合演習	3	2	90	半年		15					30				30		
相談支援	—	2	90	集中	15					30					30		
生活福祉文化特論	3	4	180	通年		15					60				60		
卒業研究	4	8	—	通年											—		学則第18条第2項適用
（心理学部心理学科専門教育科目）																	
心理学基礎演習Ⅰ	1	2	90	半年		15					30				30		
心理学基礎演習Ⅱ	1	2	90	半年		15					30				30		
心理学概論（心と行動）	1	2	90	半年	15					30					30		
心理学概論（心と社会）	1	2	90	半年	15					30					30		
心理統計法Ⅰ	1	2	90	半年	15					30					30		
心理統計法Ⅱ	1	2	90	半年	15					30					30		
心理テスト入門	1	2	90	半年	15					30					30		
心理テスト実習	1	1	45	半年				30					30		30		
心理学研究法	2	2	90	半年	15					30					30		
初級実験実習Ⅰ	2	1	45	半年				30					30		30		
初級実験実習Ⅱ	2	1	45	半年				30					30		30		
現代社会調査入門	1	2	90	半年	15					30					30		
質問紙調査法	2	2	90	半年	15					30					30		
推測統計学Ⅰ	2	2	90	半年		15					30				30		
推測統計学Ⅱ	2	2	90	半年		15					30				30		
中級実験実習	3	1	45	半年				30					30		30	初級実験実習Ⅰ又は初級実験実習Ⅱ	
心理学情報処理	3	2	90	半年		15					30				30	推測統計学Ⅰ、推測統計学Ⅱ	
児童心理学	1	2	90	半年	15					30					30		
学校教育の心理学	1	2	90	半年	15					30					30		
生活環境の心理学	2	2	90	半年	15					30					30		
知覚心理学	234	2	90	半年	15					30					30		
現代青年の心理学	2	2	90	半年	15					30					30		
対人関係の心理学	2	2	90	半年	15					30					30		
パーソナリティ心理学	2	2	90	半年	15					30					30		
学習の心理学	2	2	90	半年	15					30					30		
乳幼児心理学	2	2	90	半年	15					30					30		
家族心理学	2	2	90	半年	15					30					30		
認知心理学	34	2	90	半年	15					30					30		
現代社会の心理学	34	2	90	半年	15					30					30		
産業心理学	34	2	90	半年	15					30					30		
現代社会調査演習Ⅰ	34	2	90	半年		15					30				30		

授業科目	配当学年	単位	学修時間	期間	1単位あたり授業時間					授業を行う時間						前提科目	備考
					講義	演習	実験	実習	実技	講義	演習	実験	実習	実技	計		
現代社会調査演習Ⅱ	34	2	90	半年		15					30				30		
神経心理学	34	2	90	半年	15					30					30		
障害児心理学	34	2	90	半年	15					30					30		
犯罪心理学	34	2	90	半年	15					30					30		
心理関係法規論	34	2	90	集中	15					30					30		
学校教育概論	1	2	90	半年	15					30					30		
臨床心理学概論	1	2	90	半年	15					30					30		
教育方法学	3	2	90	半年	15					30					30		
教育社会学	2	2	90	半年	15					30					30		
教育経営論	2	2	90	半年	15					30					30		
発達検査論	34	2	90	半年	15					30					30		
カウンセリング概論	2	2	90	半年	15					30					30		
教育課程論	3	2	90	半年	15					30					30		
保育概論	1	2	90	半年	15					30					30		
学校臨床心理学	34	2	90	半年	15					30					30		
教育評価	2	2	90	半年	15					30					30		
生徒指導・進路指導	34	2	90	半年	15					30					30		
教育相談論	34	2	90	半年	15					30					30		
環境教育	34	2	90	半年	15					30					30		
情報教育	34	2	90	半年	15					30					30		
食と健康の教育	34	2	90	半年	15					30					30		
臨床心理アセスメント	2	2	90	半年	15					30					30	心理テスト実習	
無意識の心理学	2	2	90	半年	15					30					30		
臨床相談実習	3	2	90	半年				30					60		60		週２コマ
臨床相談演習	3	2	90	半年		15					30				30	臨床相談実習	
心理療法概論	34	2	90	半年	15					30					30		
精神医学Ⅰ	34	2	90	半年	15					30					30		生活福祉文化学部専門教育科目を兼ねる。(再掲)
精神医学Ⅱ	34	2	90	半年	15					30					30	精神医学Ⅰ	生活福祉文化学部専門教育科目を兼ねる。(再掲)
老年期の心理学	34	2	90	半年	15					30					30		
情報科学概論	34	2	90	半年	15					30					30		
心理学英文講読（基礎）	23	2	90	半年		15					30				30		
心理学英文講読（応用）	34	2	90	半年		15					30				30		
心理・教育フィールド研修a	1234	1	45	集中				30					30		30		
心理・教育フィールド研修b	234	1	45	集中				30					30		30		
心理・教育フィールド研修c	234	1	45	集中				30					30		30		
心理・教育フィールド研修d	234	1	45	集中				30					30		30		
現代ジャーナリズム論	1234	2	90	半年	15					30					30		人間文化学科専門教育科目を兼ねる。(再掲)
ビジネスの基礎	234	2	90	半年	15					30					30		生活福祉文化学部専門教育科目を兼ねる。(再掲)
マーケティング論	234	2	90	半年	15					30					30		生活福祉文化学部専門教育科目を兼ねる。(再掲)
教職専門ゼミナール	3	1	45	半年		30					30				30		
国語科教育	2	2	90	半年	15					30					30		
読書指導と読解力	3	2	90	半年	15					30					30		
書写	2	1	45	半年				30					30		30		
社会科教育	2	2	90	半年	15					30					30		
算数科教育	2	2	90	半年	15					30					30		
理科教育	2	2	90	半年	15					30					30		
生活科教育	2	2	90	半年	15					30					30		

授業科目	配当学年	単位	学修時間	期間	1単位あたり授業時間					授業を行う時間						前提科目	備考
					講義	演習	実験	実習	実技	講義	演習	実験	実習	実技	計		
音楽科教育	2	2	90	半年	15					30					30		
図工科教育	2	2	90	半年	15					30					30		
家庭科教育	2	2	90	半年	15					30					30		
体育科教育	2	2	90	半年	15					30					30		
国語科指導法	2	2	90	半年	15					30					30		
社会科指導法	2	2	90	半年	15					30					30		
算数科指導法	2	2	90	半年	15					30					30		
理科指導法	2	2	90	半年	15					30					30		
生活科指導法	2	2	90	半年	15					30					30		
音楽科指導法	3	2	90	半年	15					30					30		
図工科指導法	3	2	90	半年	15					30					30		
家庭科指導法	3	2	90	半年	15					30					30		
体育科指導法	3	2	90	半年	15					30					30		
保育内容指導法（健康）	3	2	90	半年	15					30					30		
保育内容指導法（人間関係）	3	2	90	半年	15					30					30		
保育内容指導法（環境）	2	2	90	半年	15					30					30		
保育内容指導法（言葉）	2	2	90	半年	15					30					30		
保育内容指導法（表現）	2	2	90	半年	15					30					30		
教師論	1	2	90	半年	15					30					30		
教育学	1	2	90	半年	15					30					30		
道徳の指導法	23	2	90	半年	15					30					30		
特別活動の指導法	23	2	90	半年	15					30					30		
児童英語教育Ⅰ	1234	2	90	半年	15					30					30		英語英文学科専門教育科目を兼ねる。（再掲）
児童英語教育Ⅱ	1234	2	90	半年	15					30					30		英語英文学科専門教育科目を兼ねる。（再掲）
子どものための英語教育Ⅰ	234	2	90	集中	15					30					30		英語英文学科専門教育科目を兼ねる。（再掲）
子どものための英語教育Ⅱ	234	2	90	集中	15					30					30		英語英文学科専門教育科目を兼ねる。（再掲）
英語教材作成演習	234	2	90	集中		15					30				30		英語英文学科専門教育科目を兼ねる。（再掲）
子供のネット安全教育の理論と実践	—	2	90	半年	15	15				15	15				30		
若者と自殺―いのちのリレー講座	—	2	90	半年	15						30				30		15コマ
心理学演習Ⅰ	3	4	180	半年		15					60				60		
心理学演習Ⅱ	4	4	180	通年		15					60				60		
卒業研究	4	8	—	通年											—		学則第18条第2項適用
（資格関係）（他の区分の科目を兼ねるものを除く。）																	
教師論	1	2	90	半年	15					30					30		
発達と学習の教育心理	2	2	90	半年	15					30					30		
教育課程論	23	2	90	半年	15					30					30		
国語科教育法Ⅰ	2	2	90	半年	15					30					30		
国語科教育法Ⅱ	2	2	90	半年	15					30					30		
国語科教育法Ⅲ	3	2	90	半年		15					30				30		
国語科教育法Ⅳ	3	2	90	半年		15					30				30		
道徳の指導法	23	2	90	半年	15					30					30		
特別活動の指導法	23	2	90	半年	15					30					30		
教育の方法及び技術	3	2	90	半年	15					30					30		
生徒指導・進路指導の理論及び方法	23	2	90	半年	15					30					30		
教育相談の理論及び方法	23	2	90	半年	15					30					30		
教育実習事前事後指導	34	1	45	集中		30					30				30		

授業科目	配当学年	単位	学修時間	期間	1単位あたり授業時間					授業を行う時間						前提科目	備考
					講義	演習	実験	実習	実技	講義	演習	実験	実習	実技	計		
小学校教育実習Ⅰ	34	2	90	集中				30					60		60	学生便覧の「教育職員免許状」の項に定めるところによる。	
小学校教育実習Ⅱ	34	2	90	集中				30					60		60		
幼稚園教育実習Ⅰ	34	2	90	集中				30					60		60		
幼稚園教育実習Ⅱ	34	2	90	集中				30					60		60		
教職実践演習（幼・小）	4	2	90	半年		15					30				30		
教育実習Ⅰ	4	2	90	集中				30					60		60		
教育実習Ⅱ	4	2	90	集中				30					60		60		
教職実践演習（中・高）	4	2	90	半年		15					30				30		
介護等体験	23	1	45	集中				30					30		30		
学校経営と学校図書館	234	2	90	半年	15					30					30		
学校図書館メディアの構成	234	2	90	半年	15					30					30		
学習指導と学校図書館	234	2	90	半年	15					30					30		
読書と豊かな人間性	234	2	90	半年	15					30					30		
情報メディアの活用	234	2	90	半年	15					30					30		
生涯学習概論	234	2	90	半年	15					30					30		
図書館概論	1	2	90	半年	15					30					30		
図書館制度・経営論	34	2	90	半年	15					30					30		
図書館サービス概論	234	2	90	半年	15					30					30		
情報サービス論	234	2	90	半年	15					30					30		
児童サービス論	34	2	90	半年	15					30					30		
情報サービス演習Ⅰ	234	2	90	半年		15					30				30		
情報サービス演習Ⅱ	234	2	90	半年		15					30				30		
図書館情報資源概論	12	2	90	半年	15					30					30		
情報資源組織論	234	2	90	半年	15					30					30		
情報資源組織演習Ⅰ	234	2	90	半年		15					30				30		
情報資源組織演習Ⅱ	234	2	90	半年		15					30				30		
図書館基礎特論	234	1	45	半年	15					15					15		全7.5コマ
図書館サービス特論	234	2	90	集中	15					30					30		
図書館情報資源特論	234	1	45	半年	15					15					15		全7.5コマ
図書・図書館史	234	2	90	半年	15					30					30		
図書館総合演習	234	1	45	半年		30					30				30		
図書館実習	4	1	45	集中				30					30		30		
博物館経営論	1234	2	90	半年	15					30					30		
博物館資料論	234	2	90	半年	15					30					30		
博物館資料保存論	234	2	90	半年	15					30					30		
博物館展示論	1234	2	90	半年	15					30					30		
博物館教育論	1234	2	90	半年	15					30					30		
博物館実習Ⅰ	34	1	45	半年				30					30		30	博物館概論	
博物館実習Ⅱ	34	2	90	集中				30					60		60	博物館概論	
応用プレゼンテーション演習	34	2	90	半年		15					30				30		
日本語教授法	23	2	90	半年	15					30					30		
日本語教育実習Ⅰ	3	2	90	半年				30					60		60	日本語教育入門	週２コマ
日本語教育実習Ⅱ	34	2	90	集中	15			30		10			40		50	日本語教育実習Ⅰ	
日本語教育実習Ⅲ	3	2	90	集中				30					60		60	日本語教育実習Ⅰ	
日本語教育実習Ⅳ	4	4	180	集中				30					120		120	日本語教育実習Ⅰ	

京都ノートルダム女子大学 授業科目の出席時間数に関する細則

第１条　授業科目の出席時間数については、この細則の定めるところによる。

第２条　次の各号に定める科目の出席時間数が授業時間数の３分の２に満たない者については、当該科目の単位を与えない。

⑴　保育士養成課程に関する科目のうち「児童福祉法施行規則第六条の二第一項第三号の指定保育士養成施設の修業教科目及び単位数並びに履修方法」（平成13年厚生労働省告示第198号）別表第一による教科目に対応する科目（保育実習Ⅰ－１及び保育実習Ⅰ－２を除く。）

⑵　社会福祉援助技術演習Ⅰ、社会福祉援助技術演習Ⅱ、社会福祉援助技術演習Ⅲ、社会福祉援助技術実習指導Ⅰ、社会福祉援助技術実習指導Ⅱ、社会福祉援助技術実習指導Ⅲ、精神保健福祉援助演習（専門）Ⅰ、精神保健福祉援助演習（専門）Ⅱ、精神保健福祉援助実習指導

第３条　前条に定める科目以外の科目の出席時間数が授業時間数の３分の２に満たない者については、当該科目の単位を与えない。ただし、シラバスに記載する等の方法により学生に明示した場合で、学生の学修の状況等に鑑みて担当教員が適当と認めた場合は、これ以外の基準によることができる。

第４条　この細則の改廃は、管理運営会議の議を経て行う。

附　則（平成20年12月24日制定）

この細則は、平成21年４月１日から施行する。

附　則（平成23年12月27日改正）

この細則は、平成24年４月１日から施行する。

素点評価によらない評価の方法

平成 27 年３月16日
学　長　裁　定

1　京都ノートルダム女子大学学則（以下「学則」という。）第14条第２項の規定により、100点を満点とする評価を行うこと（以下「素点評価」という。）が難しい授業科目の評価の方法は、「合格」又は「不合格」をもって行うものとする。ただし、学則第16条、第17条及び第17条の２の規定により本学における授業科目の履修により修得したものとみなして単位を認定する場合並びに特定目的海外研修により単位を認定する場合で、素点評価が難しい場合は、「認」とする。

2　前項の方法を行う科目は、次表のとおりとする。

共通教育科目	ノートルダム学Ⅰ、ノートルダム学Ⅱ、ノートルダム学Ⅲ、ボランティア実践、インターンシップ
英語英文学科専門教育科目	海外留学事前指導、海外留学事後指導

3　この裁定は、平成27年４月１日から施行する。

京都ノートルダム女子大学 履修登録単位数の制限に関する規程

（趣旨）

第１条　京都ノートルダム女子大学学則第18条の２に定める、各年次にわたって適切に授業科目を履修するための１年間及び１学期間に履修登録することができる単位数の上限（以下「上限単位数」という。）については、この規程の定めるところによる。

（上限単位数）

第２条　上限単位数は、別表のとおりとする。ただし、人間文化学部及び生活福祉文化学部については、卒業のために必要な単位以外の単位を含まない。

２　前項の上限単位数には、特定科目、学則第17条及び第17条の２の規定により本学以外での学修を認定する科目、長期休業期間に実施される集中科目及び特別選択科目の単位を含まない。

（上限単位数の特例）

第３条　前年度の成績が優秀と認められる学生については、別表の基準により特例を適用する。

２　前項に定めるもののほか、学長が教育上特に必要と認めるときは、教授会の議を経て、上限単位数を変更して適用することができる。

（規程の改廃）

第４条　この規程の改廃は、管理運営会議の議を経て行う。

附　則（平成27年１月21日制定）

この規程は、平成27年４月１日から施行する。

別表

【人間文化学部】

学科	1年次		2年次		3年次		4年次		前年度のGPAが3.0以上の場合の上限単位数の特例
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
	年間		年間		年間		年間		
英語英文学科	24	24	24	24	24	24	24	24	前期28、後期28まで
	48		48		48		48		
人間文化学科	26	26	26	26	26	26	26	26	年間57（ただし半期30）まで
	49		49		49		49		

【生活福祉文化学部】

学科	1年次		2年次		3年次		4年次		前年度のGPAが3.0以上の場合の上限単位数の特例
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
	年間		年間		年間		年間		
生活福祉文化学科	24	24	24	24	24	24	24	24	前期28、後期28まで
	48		48		48		48		

【心理学部】

学科	1年次		2年次		3年次		4年次		前年度のGPAが2.8以上の場合の上限単位数の特例
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
	年間		年間		年間		年間		
心理学科	24	24	26	26	26	26	26	26	年間53（ただし半期30）まで
	46		49		49		49		

京都ノートルダム女子大学 卒業延期に関する規程

（目的）

第１条　この規程は、京都ノートルダム女子大学（以下「本学」という。）学則第21条の２に基づき、卒業の要件を満たす者が引き続き在学することを認める制度（以下「卒業延期制度」という。）に関し、必要な事項を定める。

（対象）

第２条　卒業延期制度の対象となる学生は、次の要件をすべて満たす者とする。

⑴　本学学則に規定する卒業要件を満たし、かつ、引き続き在学することにより在学期間が学則第５条に規定する年数を超えないこと

⑵　授業料等の学生納入金を滞納していないこと

（延長できる期間）

第３条　在学を延長することができる期間は、半年とする。ただし、卒業延期制度の適用を受けた者が引き続き延長を希望するときは、２年を上限として再度許可することができる。

（手続き）

第４条　卒業延期制度の適用を希望する者（以下「卒業延期希望者」という。）は、本来卒業することとなる学期（既に卒業延期制度の適用を受けている者にあっては、延長後の在学期間が終了する学期。以下同じ。）の授業最終日までに卒業延期願を提出し、許可を受けなければならない。

２　教授会は、卒業延期希望者の卒業判定後、卒業延期制度の適用の可否を審議するものとする。ただし、教授会が卒業不可の判定をしたときは、卒業延期願を無効とする。

３　卒業の延期を許可された者（以下「卒業延期者」という。）には、文書で通知する。

４　卒業延期者が許可の取消を希望するときは、所定の期日までに卒業延期許可取消願を提出した場合に限り、本来予定する時期の卒業を認めるものとする。

５　卒業延期者が、延長期間に係る納付すべき学費等を所定の期日までに納入しなかった場合は、卒業延期の許可を取り消し、本来卒業するべき時期の卒業とする。

（授業科目の履修）

第５条　卒業延期者は、授業科目を履修することができる。

（休学の取り扱い）

第６条　卒業延期期間中は、休学を認めない。

（留学の取り扱い）

第７条　卒業延期期間中は、本学の留学制度による留学を認める。

（学費等）

第８条　卒業延期者の納付すべき学費等の額は、学則別表２の定めるところによる。

２　履修開始後に履修中止した場合であっても、一旦納付した学費等は、返還しない。

（改廃）

第９条　この規程の改廃は、管理運営会議の議を経て行う。

（その他）

第10条　この規程に定めるもののほか、卒業延期制度に関する必要な事項は、学長が定める。

附　則（平成23年12月27日制定）

この規程は、平成24年１月17日から施行する。

教育方針（３つのポリシー）

１．アドミッションポリシー（入学者受入れ方針）

京都ノートルダム女子大学は、学問の街である京都の地に「Virtus et Scientia（徳と知）」を建学の精神に掲げ、「深く専門の学芸を教授研究するとともに、カトリック精神及び日本文化の優れた伝統を体し、教養高き女性を育成して我が国文化の推進に寄与すること」を目的とし高い意識のもと1961年に創立された女子大学です。

文化の多様性を理解し異文化に対する寛容な国際感覚や、現代社会の要請に応じた実践的問題解決能力、豊かで質の高い生活を営み、さらに質の高い社会を創造する支援者として活躍できる力を身につけた女性の育成を教育の目標にしており，多数の卒業生が社会で活躍しています。

このような精神のもと、本学では、建学の精神・カトリック精神、また英語英文学科・人間文化学科・生活福祉文化学科・心理学科の学びや特色に共感し、主体的に学び、研究を深める意欲ある入学者を求めています。京都ノートルダム女子大学では各学部学科がその教育目標にあわせた多様な入学者選抜試験を行い、基礎学力を備え、豊かな経験を有する女性の入学を広く国内外から受け入れています。

＜１年次生＞

〈人間文化学部　英語英文学科〉

【学ぶ内容および特色】

英語英文学科は、英語を機軸にして、英語圏文化についての知識、英語教育の知識と資格、その他ホスピタリティを含む実践的能力と人間性を備え、異文化の環境でも力を発揮できる柔軟で心豊かな国際人を輩出することを目的に教育を行っています。したがって以下のような学生の入学を期待します。

【入学を期待する学生像】

１．ことばとしての「英語」に興味を持ち、同時に英語圏の文化、歴史、社会、コミュニケーションに幅広く関心を寄せる人。
２．英語圏の文化や文学（作品）に関心があり、これらを専門的に学ぶことによって深い教養と豊かな心を育みたい人。
３．留学制度等を活用し徹底的に実践的な英語力を鍛え、グローバルに活躍するための能力を身につけたい人。
４．英語の教諭免許（中学校・高等学校第一種）を取得し、将来教員を目指す人。
５．幼児・児童の言語獲得や英語指導法を学び、早期英語教育に携わることを目指す人。
６．ホスピタリティやプレゼンテーション技能、医療英語を学び、航空業界、外資系の企業、病院など実社会に通用する社会人基礎力を鍛えたい人。

【入学者が履修しておくことが望ましい科目や資格】

コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ、英語表現Ⅰ・Ⅱを履修し、読む、書く、話す、聞く、の英語における4分野の学習をしていること。また、現代文、世界史の履修が望ましいです。また、TOEIC®、TOEFL®、実用英語技能検定等の学習をしていると大いに役立ちます。

〈人間文化学部　人間文化学科〉

【学ぶ内容および特色】

人間文化学科では、「日本語と日本文化」「多文化理解」「芸術と思想」「読書と情報の文化」の４領域にわたり、国際的な広い視野をもちつつ、文化について深く考察する教育プログラムを展開しています。また、社会の即戦力となる実践的スキルを習得した人材育成のため、積極的かつ系統的に必要な能力・資格を身につけていく「キャリアデザインプログラム」を併せて実施し、学生個々のキャリア形成を強力に支援します。とくに、１～２年次を中心に、書き言葉・話し言葉の両面から国語力を養成し、就職などにも役立つプレゼンテーション能力の向上につなげます。

【入学を期待する学生像】

１．言語や文学に関心があり、その構造や歴史について学びたい人。
２．国語力に磨きをかけたい、あるいは新たに外国語を学びたいと思っている人。
３．朗読、スピーチ、話し言葉など、音声言語について学びたいと思っている人。プレゼンテーションの能力を高め、資格を取得したいと思っている人。
４．神社仏閣など、日本の伝統文化に関心があり、古都京都を「学びのフィールド」として、日本文化の奥深さを体感した

い人。
5．世界の多くの異なる文化について理解し、多様な文化交流の歴史や今日のグローバル社会における異文化交流や国際政治の現状について学びたい人。
6．さまざまな芸術について理解し、その歴史や思想的・宗教的背景について学びたい人。
7．書物や読書の歴史を学びたい人。また、子どもの成長過程における読書の意義について考え、子どもへの読書支援活動を行いたい人。
8．インターネット社会が展開する新しい文化活動の実態を分析してみたい、あるいはネットワーク社会における倫理の問題について考えたい人。情報処理士やウェブデザイン実務士など、コンピューターに関するさまざまな資格を取得したいと思っている人。
9．中学・高校の国語科教諭免許や、外国人に教える日本語教員資格を取得したいと思っている人。
10．博物館学芸員の資格を得て博物館や美術館関連の職業をめざしたい人。
11．図書館司書資格を得て図書館関連の職業につきたい人。

【入学者が履修しておくことが望ましい科目や資格】

外国語、国語、公民、地理歴史の必修科目を確実に修得しておくこと。また、情報、芸術関係の科目についても、強い関心のある人は、知識や能力を高めておくこと。

【入学者が取得しておくことが望ましい資格の一例】

漢字検定２級、日本語検定３級、その他各自が関心をもっている領域の検定（例.京都・観光文化検定試験など）を受検すること。

〈生活福祉文化学部　生活福祉文化学科〉

【学ぶ内容および特色】

生活福祉文化学部では、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などを習得し、さらに現代社会の要請に応じた対人援助能力、実践的問題解決能力を身につけた「生活者を支援する人材」を養成することを目標としています。以下のような学生の入学を期待します。

【入学を期待する学生像】

1．幅広い視野で生活と福祉をみつめ、よりよい「暮らし」をデザインしていこうとする情熱をもち、自ら積極的に学ぶ意欲と能力を持つ人。
2．衣・食・住・健康など身近な事象を有機的なつながりをもって学ぶことによって、社会の本質を見極める確かな目を養い、現代生活をより快適に過ごす「生活のスペシャリスト」を目指そうとする人。
3．地域社会への理解を深め、人々の暮らしについて様々な問題意識を持ち、社会貢献や女性の視点を活かしたビジネスチャンスの創造に対する意欲と関心を持つ人。
4．現代生活における様々な課題に対応できる基礎知識と技能を備え、地域や社会に還元する教育実践活動に関心を持つ人。
5．保育・児童福祉、高齢者福祉、障がい児・障がい者福祉など各分野において、人間に対する深い理解や対人援助の理論や技術を幅広く身につけた福祉専門職を目指す意欲と関心を持つ人。

【高等学校において履修すべき科目や取得が望ましい資格等】

1．「暮らし」や「福祉」という人間の生活に関わる学びの基礎には、文章読解力や作文能力、対人コミュニケーション力が求められます。そのため、「国語表現」、「国語総合」といった国語に関する科目や、「英語」についての基礎的な学習をしておくことが大切です。
2．「暮らし」や「福祉」に関する知識・技術・態度を身につけていくための基礎として、「家庭基礎」、「家庭総合」といった家庭に関する科目や、「現代社会」といった科目に関心を持って取り組んでおくことが望まれます。
3．また、高等学校の専門学科、総合学科における人の暮らしに関わる専門科目は本学部における学びに役立ちます。特に以下に示す学科での専門科目は本学部における学びを深めていく上で重要です。
　家庭に関する学科：「生活産業基礎」などのすべての専門科目
　福祉に関する学科：「社会福祉基礎」などのすべての専門科目
　農業に関する学科：「食品製造」などの専門科目
　商業に関する学科：「マーケティング」などの専門科目
　総合学科：「産業社会と人間」などの専門科目
4．以上のような教科・科目での学びだけでなく、「総合的な学習の時間」やボランティアなどを含む課外活動は、人間や生活に関する問題・課題への興味・関心を高め、個性豊かな人間性の基礎となるものです。こうした実践的な活動経験は本学部での学びに大いに役立ちます。

〈心理学部　心理学科（現代心理専攻・学校心理専攻・臨床心理専攻）〉

【学ぶ内容および特色】

心理学部においては、実験、観察、調査などの実践的内容を含む授業をとおし、「人間行動を客観的に深く分析できる人材の養成」と「家庭や学校や社会のすべての場で心を理解し、人と関わるための対応ができる人材の養成」を目指しています。具体的には、次のような学生の入学を期待します。

【入学を期待する学生像】

1．人のこころを理解し、人との関わりや対話を大切に考え、心理学に幅広く関心を持っている人。
2．心理学の知識や技能を習得し、現代社会の要請に応じた実践的問題解決能力や産業界で活躍できる力を身につけたい人。
3．心理学への学習意欲や問題探求心に優れ、様々な問題や事象について論理的に考え、解決策を追求することに熱意がある人。
4．人間の思考や行動、人間関係や社会構造に興味を持ち、心理学の見地から深く探究したい人。
5．現代社会に生きる人々が抱える心理的諸問題を解決し、社会に寄与したいと考える人。
6．認定心理士、社会調査士など心理学関係の資格や教諭免許（幼稚園及び小学校第一種）を取得し、将来その資格を活かした職業に就きたい人。

【入学までに求める学習経験】

国語や英語の学習を通して、読む・書く・話す・聞くといった経験を積み、説明力やコミュニケーション力をつけることが大切です。そして、社会（地理歴史・公民）の学習を通して、現代社会や身の周りの出来事に関心と問題意識を持ち、課外活動などを通して、その解決方法を考えたり実行していることが望まれます。また、基礎的な数学（数学Ⅰ）や理科での学びを通して、物事を客観的に捉える力も必要です。得意・不得意に関わらず、各科目を幅広く学習しておくことを要望します。

＜編入＞

〈人間文化学部　英語英文学科〉

【学ぶ内容および特色】

英語英文学科は、英語を機軸にして、英語圏文化についての知識、英語教育の知識と資格、その他ホスピタリティを含む実践的能力と人間性を備え、異文化の環境でも力を発揮できる柔軟で心豊かな国際人を輩出することを目的に教育を行っています。したがって以下のような学生の入学を期待します。

【入学を期待する学生像】

1．ことばとしての「英語」に興味を持ち、同時に英語圏の文化、歴史、社会、コミュニケーションに幅広く関心を寄せる人。
2．英語圏の文化や文学（作品）に関心があり、これらを専門的に学ぶことによって深い教養と豊かな心を育みたい人。
3．留学制度等を活用し徹底的に実践的な英語力を鍛え、グローバルに活躍するための能力を身につけたい人。
4．英語の教諭免許（中学校・高等学校第一種）を取得し、将来教員を目指す人。
5．幼児・児童の言語獲得や英語指導法を学び、早期英語教育に携わることを目指す人。
6．ホスピタリティやプレゼンテーション技能、医療英語を学び、航空業界、外資系の企業、病院などの実社会に通用する社会人基礎力を鍛えたい人。

【入学者が履修しておくことが望ましい科目や資格】

英語Ⅰ、英語Ⅱ、リーディング、ライティングを履修し、読む、書く、話す、聞く、の英語における4分野の学習をしていること。また、現代文、世界史の履修が望ましいです。また、TOEIC®、TOEFL®、実用英語技能検定等の学習をしていると大いに役立ちます。

〈人間文化学部　人間文化学科〉

【学ぶ内容および特色】

人間文化学科では、「日本語と日本文化」「多文化理解」「芸術と思想」「読書と情報の文化」の４領域にわたり、国際的な広い視野をもちつつ、文化について深く考察する教育プログラムを展開しています。また、社会の即戦力となる実践的スキルを習得した人材育成のため、積極的かつ系統的に必要な能力・資格を身につけていく「キャリアデザインプログラム」を併せて実施し、学生個々のキャリア形成を強力に支援します。

【入学を期待する学生像】

1．言語や文学に関心があり、その構造や歴史について学びたい人。
2．国語力に磨きをかけたい、あるいは新たに外国語を学びたいと思っている人。

3．朗読、スピーチ、話し言葉など、音声言語について学びたいと思っている人。プレゼンテーションの能力を高め、資格を取得したいと思っている人。
4．神社仏閣など、日本の伝統文化に関心があり、古都京都を「学びのフィールド」として、日本文化の奥深さを体感したい人。
5．世界の多くの異なる文化について理解し、多様な文化交流の歴史や今日のグローバル社会における異文化交流や国際政治の現状について学びたい人。
6．さまざまな芸術について理解し、その歴史や思想的・宗教的背景について学びたい人。
7．書物や読書の歴史を学びたい人。また、子どもの成長過程における読書の意義について考え、子どもへの読書支援活動を行いたい人。
8．インターネット社会が展開する新しい文化活動の実態を分析してみたい、あるいはネットワーク社会における倫理の問題について考えたい人。情報処理士やウェブデザイン実務士など、コンピューターに関するさまざまな資格を取得したいと思っている人。
9．中学・高校の国語科教諭免許や、外国人に教える日本語教員資格を取得したいと思っている人。
10．博物館学芸員の資格を得て博物館や美術館関連の職業をめざしたい人。
11．図書館司書資格を得て図書館関連の職業につきたい人
12．これまでの学習を通して、文献を読んだり、レポートを作成したりすることにある程度習熟し、ゼミでの卒業研究や論文制作に支障がないと思われる人。

【入学者が履修しておくことが望ましい科目の一例】

学科に関連する日本や世界の文化・芸術、読書や情報の文化、などの領域のうち、入学者の関心領域について、基礎的な知識や能力を確実なものにし、理解を深めておくこと。

【入学者が取得しておくことが望ましい資格の一例】

漢字検定２級、日本語検定３級、その他各自が関心をもっている領域の検定（例.京都・観光文化検定試験など）

〈生活福祉文化学部　生活福祉文化学科〉

【学ぶ内容および特色】

生活福祉文化学部では、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などを習得し、さらに現代社会の要請に応じた対人援助能力、実践的問題解決能力を身につけた「生活者を支援する人材」を養成することを目標としています。以下のような学生の入学を期待します。

【入学を期待する学生像】

1．幅広い視野で生活と福祉をみつめ、よりよい「暮らし」をデザインしていこうとする情熱をもち、自ら積極的に学ぶ意欲と能力を持つ人。
2．衣・食・住・健康など身近な事象を有機的なつながりをもって学ぶことによって、社会の本質を見極める確かな目を養い、現代生活をより快適に過ごす「生活のスペシャリスト」を目指そうとする人。
3．地域社会への理解を深め、人々の暮らしについて様々な問題意識を持ち、社会貢献や女性の視点を活かしたビジネスチャンスの創造に対する意欲と関心を持つ人。
4．現代生活における様々な課題に対応できる基礎知識と技能を備え、地域や社会に還元する教育実践活動に関心を持つ人。
5．保育・児童福祉、高齢者福祉、障がい児・障がい者福祉など各分野において、人間に対する深い理解や対人援助の理論や技術を幅広く身につけた福祉専門職を目指す意欲と関心を持つ人。

【三年次編入学対象者に求める学習経験】

1．「暮らし」や「福祉」という人間の生活に関わる学びをより豊かなものとするためには、文章読解力や作文能力、対人コミュニケーション力といった基礎的な学力と共に、三年次から編入するにあたっては、短期大学などで培った専門的な知識や課題解決力がその基盤となります。
ここでいう専門的な知識とは、生活科学、社会福祉学、保育学といったものがその中核となります。しかし、生活福祉文化学部での学びの基盤となるものは、これらの領域に限定されるものではなく、多様な領域での専門的な知識もその基盤となり得るものです。
2．ボランティアなどを含む課外活動は、人間や生活に関する問題・課題への興味・関心を高め、個性豊かな人間性の基礎となるものです。こうした実践的な活動経験は本学部での学びに大いに役立ちます。

【二年次編入学対象者に求める学習経験】

1．「暮らし」や「福祉」という人間の生活に関わる学びをより豊かなものとするためには、二年次から編入するにあたっては、文章読解力や作文能力、対人コミュニケーション力といった基礎的な学力と、生活科学、社会福祉学、保育学といっ

た専門的な知識を学ぶ意欲や興味関心がその基盤となります。

2．ボランティアなどを含む課外活動は、人間や生活に関する問題・課題への興味・関心を高め、個性豊かな人間性の基礎となるものです。こうした実践的な活動経験は本学部での学びに大いに役立ちます。

〈心理学部　心理学科（現代心理専攻・学校心理専攻・臨床心理専攻）〉

【学ぶ内容および特色】

心理学部においては、実験、観察、調査などの実践的内容を含む授業をとおし、「人間行動を客観的に深く分析できる人材の養成」と「家庭・学校・社会で人のこころを理解し、接遇と援助ができる人材の養成」を目指しています。具体的には、次のような学生の入学を期待します。

【入学を期待する学生像】

1．人のこころを理解し、人との関わりや対話を大切に考え、心理学に幅広く関心を持っている人。
2．心理学の知識や技能を習得し、現代社会の要請に応じた実践的問題解決能力や産業界で活躍できる力を身につけたい人。
3．心理学への学習意欲や問題探求心に優れ、様々な問題や事象について論理的に考え、解決策を追求することに熱意がある人。
4．人間の思考や行動、人間関係や社会構造に興味を持ち、心理学の見地から深く探究したい人。
5．現代社会に生きる人々が抱える心理的諸問題を解決し、社会に寄与したいと考える人。
6．認定心理士、社会調査士など心理学関係の資格や教諭免許（幼稚園及び小学校第一種）を取得し、将来その資格を活かした職業に就きたい人。

【三年次編入学対象者に求める学習経験】

1．人のこころをより深く理解し、それを活用して問題解決や対人援助に結びつけていくためには、論理的思考力や文章読解・作文能力、対人コミュニケーション力といった基礎的な学力と共に、短期大学などで培った専門的な知識や経験がその基盤となります。ここでいう専門的な知識とは、心理学（行動科学）・教育学・社会学といった人文・社会科学系の学問的知識を中心としますが、三年次から編入するにあたっては、これらの領域のみならず、近接領域でのこころの理解に関する専門的知識もその基盤となり得るものです。
これらの基盤に基づき、課題を自分なりに工夫して解決したり、問題意識を持って主体的・積極的に学習していく姿勢が望まれます。
2．編入学前の学生生活や社会人生活において、家庭・地域・産業社会において自発的な実践活動を様々に経験しておくことを要望します。

【二年次編入学対象者に求める学習経験】

1．人のこころをより深く理解し、それを活用して問題解決や対人援助に結びつけていくためには、論理的思考力や文章読解・作文能力、対人コミュニケーション力といった基礎的な学力と共に、専門的な知識や経験が必要です。二年次から編入するにあたっては、現代社会における心理や教育のさまざまな問題について、積極的な関心と探究心を持っていることが基盤となります。
また、課題を自分なりに工夫して解決したり、問題意識を持って主体的・積極的に学習していく姿勢が望まれます。
2．編入学前の学生生活や社会人生活において、家庭・地域・産業社会において自発的な実践活動を様々に経験しておくことを要望します。

2．カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施方針）

1．全人的な「常識」と「良識」そして「情緒」と「品性」を備えた女性の育成をめざした「総合的教養教育」を展開する。そのために、共通教育科目に、ライフキャリア形成科目、カトリック教育科目、リテラシー・スポーツ科目、外国語科目、教養科目を設置する。
2．総合的な教養を基盤として、現代社会で求められている専門的な知識、技能、技術を身につけた女性の育成を目指し、各学部における専門教育を展開する。
3．所属の専攻領域に隣接する領域科目や関心のある他分野の科目を積極的に履修して、学際的に学ぶことを奨励し、それを保障する柔軟な教育課程編成をとる。

〈人間文化学部　英語英文学科〉

英語英文学科は高度な語学力を武器に、異文化の中でも力を発揮できる柔軟で教養豊かな国際人を育成するという教育目標のために、次のような教育を行っています。

1．語学教育による英語基礎力の習得

基礎的な英語技能を習得できる「専門基礎科目」群を設置している。1、2、3年次の語学必修科目においては習熟度別の少人数クラス編成とし、専門教育、教職課程、プログラム科目の基礎となる英語力を培う。

2．専門教育による専門的知識の習得

「グローバル英語コース」と「英語教養コース」を設ける。各コース共通の「専門基幹科目」を履修することで得られた専門的知見を基盤として、各コースに定められた「専門展開科目」群のうち、グローバル英語コースは12単位、英語教養コースは16単位を選択必修として学ぶ。3年次の必修「英語英文学演習I・II」、4年次の必修「卒業研究」における英語による卒業論文執筆活動を通して、英語圏の文化や言語に精通する。

3．グローバル英語コース

グローバル英語コースでは、2年次の後期に行う留学経験に加えて、授業言語を英語とする「専門展開科目」群をバランスよく履修することにより、三領域Japanese Culture and Global Awareness、Literature and Global Culture、Language and Global Communication における専門的知見を身につけるとともに、深い異文化理解とグローバルな視点に基づいた卓越した国際コミュニケーション能力を獲得する。

4．英語教養コース

英語教養コースでは、授業言語を英語または日本語とする「専門展開科目」群のなかから、三つの専門領域をバランスよく、あるいは一つの領域に集中して履修することにより、英語英文学、言語学、コミュニケーション学に関する専門的な学術知識を身につけるとともに、豊かな教養とグローバルな視点に基づいた批判的・論理的思考力を培う。

5．キャリア教育による社会人基礎力および実践的英語コミュニケーション力の育成

英語教育、エアラインプログラム、医療サポート語学プログラム（英語）、プレゼンテーション実務士に関する科目群を両コース共通の「専門関連科目」として開設し、将来国際人として活躍できる社会人基礎力および実践的英語コミュニケーション力を伸ばす。

〈人間文化学部　人間文化学科〉

人間文化学科は、芸術から思想まで多様な文化現象に通じ、自国の文化を知ると共に異文化に敬意を払う人材を育成するために、次のような教育を行っています。

1．「人間文化」の多彩な教養の学びとして、「日本語と日本文化」「多文化理解」「芸術と思想」「読書と情報の文化」の４領域を用意している。

2．「基礎演習」（１年次）により少人数制の初年次教育を開始し、「発展演習」（２年次）、「専門演習」（３年次）、そして「卒業研究」（４年次）において卒業論文または卒業制作の指導を行う。

3．中・高等学校国語科教員免許課程をはじめとして各種の免許・資格取得のための課程を提供する。

4．学生のそれぞれの関心に合わせて科目履修ができるように、フレキシブル単位ゾーンを確立し、卒業要件単位の科目区分を緩和し、26単位まで自由な履修が可能である。

5．ゼミ演習、フィールドワークなど社会人基礎力につながる実践教育を行っている。卒業時には「自分を育てる力」「共生・協働する力」「コミュニケーションする力」「創造発信する力」「思考・解決する力」「主体的に行動する力」を身につける教育を実践している。

〈生活福祉文化学部〉

生活福祉文化学部は、「生活者を支援する人材養成」という目標実現のため、次のような科目構成で学びを深めています。

1．初年次における必修科目「生活福祉文化基礎演習Ⅰ、Ⅱ」を中心に、大学生に必要な学習技術を習得し、生活福祉文化の基礎的な知識と研究法を体得することを通して、高等学校等から大学への円滑な移行を図る。

２年次ではさらに発展させた「生活福祉文化基礎演習Ⅲ、Ⅳ」を必修科目として配置し、３年次の「生活福祉文化特論」へのアプローチとして、幅広いフィールドワーク等を取り入れた実践教育を目指す。

2．生活の基盤である生活学の領域、人間の在り方や生き方の理解を深める社会福祉学の領域の学びを深め、自らの探求基盤を形成するために、「ライフデザイン領域」と「ソーシャルワーク領域」という２領域を配置し、専門的な知識・態度・志向性を明確にすることで、一人ひとりの学生がその関心・志望に応じた学びのデザイン作りを促進する。

3．専門的かつ多様な学びをサポートするために、履修する領域をひとまとまりとして明示した「フィールド」と、さらにそのフィールドを構成する科目を具体的な学びによって細分化した「ユニット」に区分して、効率よくオリジナリティのある学びのデザイン作りを可能としている。

4．３、４年次においては、「生活福祉文化特論」「卒業研究」といった科目を中心として自らの探求基盤を踏まえ、各自の探求課題を具体化し個別的研究課題の解明に取り組む。

〈心理学部〉

心理学部は、複雑化する現代の社会的要請に応えるために、３つの専攻（現代心理、学校心理、臨床心理）を設け、各専攻に精通した人材の育成という教育目標を実現するために、次のようなカリキュラムを編成し、教育を行っています。

1．３専攻とも「基礎科目」「展開科目」「関連科目」「専門演習・卒業研究」を設置し、これらを通して、心理学の知識と技術の修得を可能にする。
2．「基礎科目」では、心理学の概論的知識と方法論を学び、心理学の基本的理論や基礎知識、学術用語を習得することをめざし、心理学的アプローチの基盤を身に付ける。初年次においては、専門教育への導入として、基礎的な日本語能力やデータ活用の方法を身に付ける。
3．「展開科目」では、それぞれの専攻の知識や方法を専門的に学び、より高度な知見や方法論を修得する。
4．「関連科目」では、自らの興味や関心、問題意識に基づいて選択し、心理学をより深く、広く理解することをめざす。
5．３年次からの「専門演習・卒業研究」では、大学における自らの学習のまとめとして、問題設定、方法論の修得など卒業論文作成までの過程について少人数のゼミで主体的に取り組むことをめざす。
6．学校心理専攻においては、小学校・幼稚園の教育職員免許状を取得するための教職課程を設け、現代心理専攻では社会調査士取得のための科目を配置している。また、全専攻で認定心理士資格、情報処理士資格を取得するための科目を配置している。

３．ディプロマポリシー（学位授与方針）

1．全人的な「常識」と「良識」を備えた上で、国際化・情報化の時代に対応し、幅広い知識と教養を身につける。
2．建学の精神に基づき、卒業時までに身につけるべき社会人基礎能力として、「自分を育てる力」「共生・協働する力」「コミュニケーションする力」「創造発信する力」「思考・解決する力」「主体的に行動する力」を身につけている。
3．人間やその生活、社会、自然のすべてに関心をもって自己涵養に努め、成果を自らの生活や社会に還元しようとする態度をもつ。
4．４年間にわたる講義や演習、実習及び実践型授業での学びを通して獲得する幅広い知識を活用し、批判的、論理的に思考する力を身につける。
5．大学での総合的な学習経験と専門知識を基盤に、特定の研究テーマに基づき卒業研究に取り組み、学修成果をまとめる。

〈人間文化学部　英語英文学科〉

1．知識

Japanese Culture and Global Awareness、Literature and Global Culture、Language and Global Communication あるいは英語圏の文学・文化、言語学、コミュニケーション学に関する学術的知識に基づいて、英語圏における文化と言語に関する諸問題を理解している。

2．技能

基礎的な英語力を基盤として、グローバル社会で必要とされる高度な語学運用能力とコミュニケーション力を身につけている。多様化する社会で活躍するために必要な社会人基礎力と実践的な英語コミュニケーション力を備えている。

3．態度

国際社会における諸問題に対処できるグローバルな視点や批判的・論理的思考力を身につけている。

〈人間文化学部　人間文化学科〉

1．「日本語と日本文化」「多文化理解」「芸術と思想」「読書と情報の文化」の４領域にわたり、国際的な広い視野と教養をもち、深く考察できる知識、技能を身につけ、応用できる。
2．書き言葉・話し言葉の両面を使いこなす国語力および社会人として求められるプレゼンテーション能力を身につける。
3．社会の即戦力となる実践的スキルを習得した人材として、積極的かつ系統的に必要な能力・資格を身につける。
4．４年間の学習経験と専門知識を基盤に、特定の研究テーマに基づき、学習成果を卒業論文または卒業制作にまとめる。

〈生活福祉文化学部〉

1．文化的な視点を背景に「生活者を支援する人材」として必要な生活と福祉の専門的な知識、技能、技術などを身につけ、応用できる。
2．現代社会における諸問題、とりわけ人の暮らしと福祉に関する諸問題に関心を持ち、理論と実践を結びつけた主体的解決能力を身につけ、社会の要請に応じた対人援助能力、問題解決能力をもつ。

〈心理学部〉

1．心理学に関する基礎力と応用力を具体的に活用しながら、日常生活における人間の行動や心理的な諸問題を予測し理解できるような科学的な思考力及び判断力を修得している。
2．現代社会における価値観の多様性と異文化間の種々の問題に心理学的に対処し、情報網を適宜に活用することによって、文化や価値観を超えた人の心の問題にグローバルな視野から貢献できる。
3．学際的な領域を含む心理学の基礎理論および方法･技能を基盤に、自ら問題意識をもったテーマを主体的に探求できる。
4．心理学的な知識を基礎に多様性のある柔軟な思考力を通して、自己実現を果たすことができる。
5．地域社会とのコミュニケーションを図り、心理的な課題に積極的に取り組む姿勢を身につけることによって社会に広く貢献できる。

本学における個人情報保護に関する取扱いについて

本学では、学生の個人情報を教育・研究及び学生支援に必要な業務を行うために保有し、利用目的範囲内で利用するために個人情報を電子データ等で管理しています。

学生の個人情報は**「学校法人ノートルダム女学院　在校生等の個人情報保護に関する規則」**に従って、その保護に努めています。

1.「学生個人情報」とは

学生及び保証人、並びに入学志願者、卒業生に関わる情報で、当該情報に含まれる氏名・生年月日その他の記述等により特定の個人を識別することができるもの（他の情報と容易に参照することができ、それにより特定の個人を識別することができるものを含む）をいいます。

2. 個人情報の利用目的について

「学生個人情報」は以下のとおり、本学の教育研究及び学生支援に必要な業務を行うために必要最小限の範囲で利用します。なお、利用目的を変更した場合は変更された利用目的について本人に通知又は公表します。

学生個人情報の利用目的

入学関係：入学選抜試験運営。入学手続。
修学関係：履修相談・修学指導。研究活動支援。履修登録。成績処理。単位認定。
　　卒業判定・学位記授与。授業・試験運営。留学。
学籍関係：学生証交付。休学・復学・退学手続。転学部・転学科・転専攻手続。
学生生活：学生生活に関わる指導・助言・支援。奨学金手続。定期健康診断。健康相談。課外活動支援。寮運営。
進路関係：就職支援。就職登録。資格取得手続。課外講座運営。
施設利用：図書館。情報教育。言語学習。ロッカールーム。
その他　：各種連絡・通知。証明書発行。各種名簿。保護者会・同窓会・大学関係団体の要請による送付物の発送。

＊個人情報を取扱う窓口については学生手帳の「窓口案内」を参照のこと。

3. 個人情報の第三者への提供について

本学では、あらかじめ本人の同意を得た上で学生の個人情報を第三者に提供することがあります。なお、本学では有効な修学支援を行うために、単位修得状況や進級・卒業条件の充足度などを保証人にお伝えすることが必要と考え、学期末に保証人宛てに（学生との連名で）成績通知書を送付することとしています。送付することについて何らかの問題がある場合は教務課に申出てください。

4. 個人情報の安全管理について

法人規則の管理方法・管理体制に従い、個人情報の漏洩・流出防止等の安全管理のために必要かつ適切な措置を講じています。

5. 個人情報の開示及び訂正について

学生個人情報は本人及び保証人が取扱窓口で開示及び訂正を求めることができます。ただし、開示しないことが教育上適当である場合は開示しないことがあります。